

# 日本キリスト教会大信仰問答

(検討資料)

(1958年版および1979年改訂案による校訂版)

2017年10月

日本キリスト教会信仰と制度に関する委員会

## 目次

## 序説 真に求めるべきもの

## 第一部 信仰篇

- 第 1 章 聖書
- 第 2 章 神
- 第 3 章 人間
- 第 4 章 仲保者
- 第 5 章 十字架の贖い、
- 第 6 章 復活
- 第 7 章 昇天
- 第 8 章 聖霊とその働き
- 第 9 章 教会
- 第 10 章 聖礼典

## 第二部 生活篇

- 第 11 章 教会生活と日本キリスト教会
- 節 12 章 十戒
- 第 13 章 主の祈り
- 第 14 章 終わりの日

## 凡例

- 1 この校訂版は 1958 年に信仰問答作成委員会によって作成された信仰問答草案、および、同草案を信仰問答制定委員会が 1979 年に改訂した改訂案によっている。
- 2 1958 年版と 1979 年改訂案とのテキストの異同は太字で表記した。
- 3 引照聖句に関しては、1979 年改訂案において 1958 年版に付加されたものについては下線を引いて表示した。また 1979 年改訂案において 1958 年版から削除された聖句については、58 ○○ (削除) と表示した。
- 4 細かい字句上の異同、たとえば 1958 年版の文語が 1979 年改訂案で口語に変わった箇所についてはいちいち取り上げなかった。

## 【はじめに】

ここにお送りする検討資料は、すぐる第66回大会において制定された「小信仰問答」（1964年版）に引き続き、もう一つ信仰問答を日本キリスト教会が制定するために作成されました。そのもう一つの信仰問答とは、1958年に信仰問答草案作成委員会によって「信仰問答草案」として出版され、のち、1979年に、信仰問答制定委員会によってその改訂案が作成されたものです。さきの大会で、「小信仰問答」（1964年版）が制定されましたので、今後は、これを「大信仰問答」と仮称することとします。

この「大信仰問答」は改訂案が1980年第30回大会において、賛成が3分の2に達せず、採択が否決されたものではありませんが、1995年の憲法改正によって、第3条に「信仰問答」の規定が設けられたことによって、その規定の光のもとで法的な位置づけが変わったゆえに、ここに再度検討に付されるにいたりました。

今、「大信仰問答」を再検討するにあたって、一番重要なことは、日本キリスト教会が信仰問答を制定するとはどういうことか、その意義を明らかにし、認識を深め、共有することであると思います。

わたしたちの教会は、その憲法第3条において、「日本キリスト教会は、信仰の教育と訓練のため、また人々を信仰告白に導くため、改革教会の諸信仰問答および日本キリスト教会が制定した諸信仰問答を用いる」と定めています。この規定に基づいて、昨年（2002年）の第66回大会において、小信仰問答が制定されました。それに続いて、このたび大信仰問答の制定が大会に建議されようとしています。わたしたちの教会にとって、信仰問答を制定し、それを保有するということはどのようなことなのでしょう。

## 【信仰問答の目的】

信仰問答は何のために作成されるのでしょうか。それは憲法によれば、第

一に、信徒の信仰教育と訓練のためであり、第二に、人々、すなわち教会員の子どもや求道者を信仰告白に導くためです。

ハイデルベルク信仰問答は、わたしたちの教会の信仰告白がその信仰を継承しているものの一つですが、それが制定されたのは三つの目的、すなわち、子どもたちの信仰教育のため、教会員を導くための説教のガイドとして、また信仰告白的一致の規準としてであったと言われていました。ただ、そのような目的をもって編まれたものの、実際には、ハイデルベルク信仰問答は、子どもの教育のためには難解すぎて適さなかったと言われていました。しかし、第二、第三の目的は十分果たされて、今日もお豊かな命を保っています。

日本キリスト教会においても、教会員の子どもたちを信仰の告白に導くため、また求道者を受洗に導くために信仰問答を持ちたいと願って、最初に編まれたのが大信仰問答でした。しかし、これは全体で299問からなり、量的に大きすぎたのと、内容的に難しすぎるということから、別途、小信仰問答が編まれ、これがもっぱら、求道者の受洗準備のために用いられてきました。そのときに、信仰問答が果たす役割として大信仰問答に残されたものがありました。すなわち、ハイデルベルク信仰問答の第二、第三の目的にあたるものです。現行の憲法においては、信仰問答は信仰告白のように規範として拘束力をもつものではありませんが、信仰告白が正しく解釈され、信仰告白に基づいて説教、教育、訓練がなされていくために、大信仰問答のような詳しい信仰問答をもつことが期待されます。

わたしたちの日本キリスト教会は信仰告白的の教会であることをめざしています。信条教会が、信条を墨守するのに対して、告白教会であるとは、聖書に記された神の御言葉を、生き生きと告白し続ける教会をめざすことだと言われていています。

神の御言葉は生きており、それに応答するわたしたちの信仰の言い表しも生きたものでなければなりません。そのような信仰の言い表しとして、わたしたちは「日本キリスト教会信仰の告白」を保有していますが、それは短文であり、簡易信条であるために、その信仰告白をさらに豊かに、深く、詳しく言い表してゆくことが課題でした。その課題に応じて「短文の信仰告白の欠け目を補い、日本キリスト教会の信仰を十分に言い表す」ために大信仰問

答は作成されたのでした。

今日、この大信仰問答を制定することの意味は、わたしたちの、短文であり、簡易である信仰告白が簡潔に、凝縮した形で言い表している信仰を、より十分に言い表すという作業を、今も、これからもわたしたちが続けていくことにあります。

大信仰問答は日本キリスト教会が日本基督教団を離脱して間もない草創期に、宗教改革の教会が生みだした信仰問答、ジュネーヴ教会信仰問答、ハイデルベルク信仰問答、ウェストミンスター大・小教理問答を基礎として、それを学び、それを踏まえて書かれました。今日、それを制定するということは、先達が取り組んだ作業を継続するということです。すなわち、大信仰問答を作成した先人たちが宗教改革の諸信仰問答を学び、そこから継承した公同の信仰を自分たちの言葉で告白し、言い表したように、わたしたちも同じ作業を続け、先人の信仰の言い表しを今日のわたしたちが受け入れ、さらに深め、豊かにし、十分に言い表していくことです。このことは具体的に言えば大信仰問答を註解していく作業となります。

### **【信仰問答の必要性】**

ここで一つ譬えを用いたいと思います。ミョウバンの飽和水溶液に一本の糸をたらすと、そこにミョウバンの結晶ができます。しかし、糸をたらさなければいつまでたっても結晶を結ぶことはありません。教会の信仰告白の一致という結晶も、信仰問答という糸をたらさなければ得られないのです。信仰問答という軸を立ててはじめて、そのまわりに信仰告白的結集が生まれ、教会の信仰の学びの深化と発展が可能となります。

戦後、日本キリスト教会が出発したとき、戦争と平和、教会と国家の問題は、戦争を経験した教会として、信仰告白的課題としては避けて通れないものでした。しかし、この問題は新日本キリスト教会の出発にあたっては、信仰告白に盛り込むことができませんでした。それが取り上げられたのは大信仰問答の「終わりの日」においてでした。

この戦争と平和、教会と国家の問題は、教会の信仰告白にとって今日でも

緊急の課題です。それだけでなく、教会の基本的教理、また倫理についても、教会員を訓練し、教育していくとき、教えのつとめを負っている教師たちは何を、どのように教えるのか、それを示すものとして信仰問答はいよいよ重要性を増しています。そして、その教会の教えは、教師たちがそれぞれ単独でするのでなく、教えのつとめが共同で協力し合って担われるために、共通の基盤、互いを結び合う絆として、信仰問答を教会において制定し、保有することが必要であり、また、願わしいことなのです。

以上述べたように、信仰問答を制定することの今日的意義は、日本キリスト教会が生ける神の御言葉を、生き生きと、豊かに、さらに深く、十分に言い表し、それを教えていく教会、告白教会になっていくためにどうしても必要なことと考えられます。その目標に向かって、日本キリスト教会が大信仰問答の註解作業に取り組むこと、それが十分な内容の理解をもって信仰問答を制定するということなのです。

2017年10月 信仰と制度に関する委員会

## 序説 真に求めるべきもの

あなたがたは主を求めよ、そして生きよ。アモス 5：6

まず神の国と神の義とを求めなさい。マタイ 6：33

1

問 人間は真に生きるために、何を求めるべきでしょうか。

答 それは、まことの神を知り<sup>1)</sup>、神を崇めて<sup>2)</sup>、生きることであります。

申 30：20、詩 119：77、アモ 5：6、マタ 4：4 (申 8：3)、同 16：25～26、ヨハ 6：51。

1) 出 6：7、箴 1：7、エレ 24：7、ホセ 6：3、ヨハ 6：68～69、同 17：3、ガラ 4：9、Iヨハ 5：20。

2) 詩 22：23、イザ 24：14～15、マラ 1：2、ロマ 11：36、同 15：6、Iコリ 10：31。

2

問 それはなぜでしょうか。

答 そのわけは、この人生を覆っている悲惨<sup>1)</sup>・虚無<sup>2)</sup>・不安<sup>3)</sup>などの根本的な原因は、人間が神から離反した<sup>4)</sup>ことにあるからです。そのために自己中心となり<sup>5)</sup>、人生の目標も生きる意味をも見失っているのです<sup>6)</sup>。

詩 130：1～3、箴 9：6、伝 9：3、イザ 55：1～3、ロマ 7：24。

1) アモ 5：16～17、ロマ 1：26～31、同 3：16、ヤコ 5：1～3。

2) 王下 17：15、ヨブ 7：3、伝 6：12、ロマ 1：21、同 3：12、同 8：20、エペ 4：17。

8

- 3) 申31:17、詩30:7、イザ7:2、同32:10~11、マタ24:6、ヨハ14:1。
- 4) マタ7:23、Iテモ6:5、ヘブ3:12、IIペテ2:15。
- 5) イザ53:6、マタ16~23、ロマ8:5、ピリ2:4、同3:19。
- 6) エレ50:6、ユダ10:11。

58 挿入

58 詩119:176 (削除)

3

問 どうすれば、その神を知ることができますか。

答 まず、神の光に照らされなければなりません。

詩36:9、イザ60:1~2、ルカ1:76~79、ヨハ1:9、使9:3、エペ1:17~18、ヘブ6:4、同10:32、Iヨハ2:8。

4

問 それは、何か神秘的な経験とか、主観的な悟りとかいったものですか。

答 いいえ、そういうこととはまったく違ったものです。これは確かな神認識であって神の啓示に基づくものです。

イザ11:9、ホセ6:6、IIコリ4:6、ヘブ11:1、ヤコ1:18。

58 ロマ1:17、Iコリ15:34 (削除)

5

問 神の啓示とはどういうものですか。

答 神の啓示とは、イエス・キリストの福音において、神が御自分を私たちにあらわしたもうこと<sup>1)</sup>で、これは、あわれみをもって、私たちが神を知り得るところにまで来たりたもうこと<sup>2)</sup>であります。

出3:1~6、エペ1:17~19。

1) ロマ16:25~26、ガラ1:12、同1:16、エペ3:3。



- 2) ヨハ1:14、同1:18、同6:40、同8:19、同10:30、同14:9～11、エペ1:8～9。

## 6

問 イエス・キリストの啓示において神を知るということが、全く新しい唯一の神認識であることはわかりましたが、その「神を知る」と「神を信ずる」とは、別なことですか。

答 いいえ。神を知るということは、罪人を招きたもう恵みの神との出会い<sup>1)</sup>において与えられるものですから、神の真実を信ずることと同じ経験です。そして信ずる者は、ひたすら罪を悔い改め<sup>2)</sup>、神に帰り<sup>3)</sup>、新たに生きるもの<sup>4)</sup>とされるのです。

詩9:10、イザ43:10、ヨハ6:69。

- 1) 創28:10～22、出3:18、使9:1～9。
- 2) マル1:15、使2:38、IIコリ7:10。
- 3) 申30:2～10、同30:10、哀3:40、ヨエ2:12～13、ルカ15:11～19、同17:18、使26:20。
- 4) エゼ18:31～32、ヨハ3:3、IIコリ5:17。

58 されるようになります。

58 IIコリ7:9 (削除)

## 7

問 新たに生きるとはどういう意味ですか。

答 それは、人間の心が真理の御霊によって聖別され<sup>1)</sup>、古いおのれを脱ぎ捨て<sup>2)</sup>、新たにイエス・キリストを着て<sup>3)</sup>、ひたすら「神の国と神の義」とを求めて生きる<sup>4)</sup>ことです。

IIコリ5:17、ガラ6:15、テト3:6。

- 1) ヨハ17:17～19、ヘブ9:13～14、Iペテ1:2。
- 2) エペ4:22～24、コロ3:9。
- 3) ロマ13:14、ガラ3:27、エペ4:24、コロ3:10～11。
- 4) 王上3:10～14、マタ6:33、ルカ12:31

58 ぬがされ

58 2) エベ4:31 (削除)

## 8

問 神の国とはどういうものですか。

答 神の国とは、**神が**世界とその中のすべてのものを御こころのままに現に支配しておられる秩序と、終わりの日に成就される約束の国とをふくめていうのです。

創3:15、詩110:1、ダニ7:14、マタ12:28、同16:28、ルカ17:21、黙22:1~4。

58 創造主なる神が

58 Iコリ4:20 (削除)

## 9

問 神の義とは何ですか。

答 神の義とは、神と人との間の正常な関係のもととなるものです。義なる神は本来人間に対して義を求めたまいますが、現に罪に落ちて、神の求められるような義を失っている人間には、恵みにより神の義を与えて、罪人を審きつつ救いたもうのです。

詩11:7、同71:2、イザ51:5~8、同53:11、マタ5:17~20、ロマ1:17、同2:13、同3:21。

58 イザ46:14 (削除)

## 10

問 まことの神を知り、そして、信ずることは、神を崇め、神の国と神の義とを求めて生きることである、と言えますか。

答 そうです。

申 24 : 13、ヨブ 29 : 14、詩 45 : 4、マタ 6 : 33、ロマ 10 : 16 ~ 17、同 15 : 7、  
I コリ 13 : 13、ピリピ 1 : 11、同 2 : 11、I テサ 2 : 12、ヤコ 4 : 7、黙 1 : 6、同 5 :  
10、同 14 : 7、同 19 : 5 ~ 8。

58 マタ 6 : 31 ~ 32、7 : 11、ヨハ 9 : 24、ルカ 8 : 15、ロマ 11 : 36、I コ  
リ 10 : 31 (削除)

11

問 このような恵みと真理とを与えてくれる知識をどこに求めるべきでしょ  
うか。

答 その唯一の途<sup>みち</sup>は聖書に聞くことです。

申 6 : 4、サム上 3 : 9、ヨハ 5 : 39 ~ 40、ロマ 10 : 16 ~ 17、II テモ 3 : 14 ~  
17。

58 王上 22 : 19、イザ 66 : 5 (削除)

## 第一部 信仰篇

### 第1章 聖書

聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。Ⅱテモテ3：16

神の言は生きていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭くて、精神と靈魂と、関節と骨髓とを切り離すまでに刺しとおして、心の思いと志とを見分けることができる。ヘブル4：12

1

問 どうして、聖書だけが神の言と言われるのですか。

答 他の宗教の経典は、いずれも、人間から出た知恵に基づく宗教的教養や行事をしるしたもので、こういうものによっては、人間はどうしても神の真理に到達することができません。これに対して、聖書だけが神御自身のみむねと人間に対する恵みとについて神の証し<sup>1)</sup>されたままをしるした書物であるからです。

1) 詩119：105、マタ22：29、行4：12、ロマ1：25、Ⅰコリ1：21、コロ2：8。

2) 詩19：7～8、ルカ24：27、ヨハ5：39、同18：37、ロマ4：3、Ⅰコリ2：7、Ⅰテモ1：15、ヤコ4：5～6、Ⅰヨハ5：9～12、黙1：9、同19：10、同22：18～21。

## 58 詩 119：8 (削除)

2

問 神の証しの書物とは、どういう意味ですか。

答 神はただ一度、イエス・キリストの教えと御業とにおいて御自身を啓示<sup>2)</sup>されましたが、その神は聖書の中に、この福音の啓示を、生ける生命の言として記録<sup>3)</sup>し、これを、信仰と生活との誤りなき規準として、私たちに与えたもうたのです。それゆえ、聖書はまったく神の啓示の証しの書<sup>5)</sup>であります。

申5：22、Iコリ1：6、同2：1。

- 1) ヘブ7：27、同9：12、同9：26、同10：10。
- 2) ヨハ14：6～7、ロマ1：17、同3：21～26、同5：8～10、ガラ3：13～14、エペ1：9、同3：3～5。
- 3) ヨハ5：39、同6：63、同10：35、同20：31。
- 4) マタ22：29～31、行28：25、エペ2：20、Iテモ3：16～17。
- 5) ヨハ17：8、同17：14、行7：38、ロマ15：4。

## 58 歴下 23：11 (削除)

3

問 新約聖書が福音の言としての恵みの啓示の書であることはわかりますが、旧約聖書についてはどうかんがえたらよいでしょうか。

答 旧約と新約とは、影と実体<sup>1)</sup>、約束と成就<sup>2)</sup>との関係です。ゆえに、旧約はすべて新約の光に照らされ、イエス・キリストを証ししておりますから、旧約聖書も新約聖書と同じように啓示の書であります。

行3：17～26、ヘブ1：1～2、同11：13。

- 1) イザ9：6～7、コロ2：17、ヘブ8：5～6、同10：1。
- 2) マタ5：17、同13：14、ルカ4：21、ヨハ1：17、行13：33、ロマ4：13～14、同10：4。
- 3) ルカ1：55、同1：68～79、同24：44、ヨハ1：45、同5：39、Iコリ10：3～4。

## 58 福音の言としての新約聖書が

4

問 聖書は誰によってしるされたものですか。

答 預言者と使徒たちによってしるされました。この人たちは聖霊の感動<sup>1)</sup>によって、神御自身の証<sup>2)</sup>をしるしたものですから、人の言葉でありつつ、本来の著者は神御自身であります。

行3:21、Iコリ2:13、IIコリ2:17、同4:2、Iテサ2:13、IIペテ1:21。

1) サム下23:2、エゼ2:1~4、行28:25、ヘブ3:7、IIテモ3:16~17、IIペテ1:21。

2) 詩119:111、Iコリ1:6、Iペテ1:10~11、Iヨハ5:9、黙1:1~3、同19:10。

58 使徒と予言者達

58 言

5

問 聖書が神の言であって、同時に、人の言葉であるということは矛盾したことでありませんか。

答 いいえ、矛盾ではありません。永遠の言であるキリストが「真の神にして真の人<sup>③</sup>」となられたのですから、聖書も人の言葉でありつつ、まことの神の言であります。

ヨハ1:14、同5:24、同5:38~39。

③ 「日本キリスト教会信仰の告白」、カルケドン信条参照。

58 言

6

問 聖書が神の言であるとしますと、その中に誤りはまったくありませんか。

答 神の恵みとまことの証しとしては、いささかの誤りもありません。しか

し、器としての文字は造られた人間のものである以上、人間の言葉のもつ制約と不自由さにまとわれていることはやむをえません。

エペ1:13、コロ1:5、IIペテ1:19～21。

7

問 それでもなお、聖書はすべて神の言であると言えますか。

答 もちろんです。神は聖霊によって文字と言葉を導き、みちからをもつて満たし、聖書の中に聖霊において現臨し、それが神の言であることを証ししておられます。

ヨハ3:34、同16:13、Iコリ2:14、IIテモ3:16、ヘブ4:12、IIペテ1:20～21。

58 その

8

問 聖書に正典としての権威を与えたのは何ですか。

答 66巻の書物を正典として受け入れたのは教会ですが、教会がそのように導かれたのは、聖書そのものが本来もっている神の言としての権威によるのです。

ルカ4:32、Iコリ2:12、ヘブ4:12、Iペテ1:23、IIペテ1:20～22

58 誰

9

問 聖書が、旧約聖書・新約聖書、つまり契約の書とよばれているのは、どういう意味ですか。

答 それは、神が恵みの<sup>けいりん</sup>経綸を行うために、人間と結ばれた<sup>い</sup>契約をしるしたものであるからです。そして、その契約はイエス・キリストにおいて私た

ちに証印<sup>2)</sup>されているのです。

- 1) 創17:7、出6:2~8、レビ26:9、エレ31:33~34、ルカ1:72~75、同22:20、行3:25、ヘブ8:6~13。
- 2) IIコリント1:22、エペソ1:13、同4:30。

58 挿入

58 レビ26:13 (削除)

## 10

問 旧約聖書は、どういう書物から成り立っていますか。

答 神とイスラエルとの律法的関係<sup>1)</sup>を<sup>2)</sup>し<sup>3)</sup>した17巻の歴史的<sup>1)</sup>文書、5巻の詩文書<sup>2)</sup>、17巻の預言的<sup>3)</sup>文書からなっています。

- 1) 創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記、ヨシュア記、士師記、ルツ記、サムエル記上、サムエル記下、列王紀上、列王紀下、歴代志上、歴代志下、エズラ記、ネヘミヤ記、エステル記。
- 2) ヨブ記、詩篇、箴言、伝道の書、雅歌。
- 3) イザヤ書、エレミヤ書、哀歌、エゼキエル書、ダニエル書、ホセア書、ヨエル書、アモス書、オバデヤ書、ヨナ書、ミカ書、ナホム書、ハバクク書、ゼパニヤ書、ハガイ書、ゼカリヤ書、マラキ書。

## 11

問 新約聖書は、どういう書物から成り立っていますか。

答 イエス・キリストの教えと生涯<sup>1)</sup>とを<sup>2)</sup>し<sup>3)</sup>した4巻の福音書<sup>1)</sup>、使徒たちの働き<sup>2)</sup>を<sup>3)</sup>し<sup>4)</sup>した1巻の記録、使徒たちのしるした信仰と生活<sup>2)</sup>とについて教える21巻の書簡<sup>3)</sup>、および、終わりの日の待望とその成就<sup>3)</sup>とを<sup>4)</sup>し<sup>5)</sup>した1巻の預言書<sup>4)</sup>からなっています。

- 1) マタイによる福音書、マルコによる福音書、ルカによる福音書、ヨハネによる福音書。
- 2) 使徒行伝。
- 3) ローマ人への手紙、コリント人への第一の手紙、コリント人への第二の手紙、ガラテヤ人への手紙、エペソ人への手紙、ピリピ人への手紙、コロサイ人への手紙、テサロニケ人への第一の手紙、テサロニケ人への第二の手紙、テモテへの第一の手紙、テ



モテへの第二の手紙、テトスへの手紙、ピレモンへの手紙、ヘブル人への手紙、ヤコブの手紙、ペテロの第一の手紙、ペテロの第二の手紙、ヨハネの第一の手紙、ヨハネの第二の手紙、ヨハネの第三の手紙、ユダの手紙。

4) ヨハネの黙示録。

12

問 聖書をただしく理解するためには、どうしたらよいのですか。

答 聖書は聖霊の感動によって書かれたものですから、これを読むものも、つねに聖霊に導かれなければなりません。また、聖書は聖書自身によって理解されなければなりません。

イザ 59 : 21、ヨハ 5 : 46 ~ 47、I コリ 2 : 10 ~ 13、II ペテ 1 : 20、I ヨハ 2 : 27。

58 挿入

13

問 それを具体的に言えば、どういうことですか。

答 生命の言である聖書は、日毎の糧<sup>かて</sup>ですから、つねに一人ひとりがこれに親しみ<sup>1)</sup>、また、その教えるところに聴き従わねばなりません<sup>2)</sup>。

しかし、聖書はとくに御言を委ねられた教会の書であり、イエス・キリストの体である教会を形成する権威の言ですから、「すべてのものを、すべてのものに満たしているかたが、満ちみちている」<sup>3)</sup>教会の宣教と交わりの中で、読まれ、また、聞かれなければなりません。

1) IIテモ 3 : 15。

2) ルカ 11 : 28、ヨハ 13 : 17、ヤコ 1 : 22 :

3) ルカ 4 : 16 ~ 21、行 13 : 15、ロマ 10 : 17。

## 第2章 神

イスラエルよ聞け。われわれの神、主は唯一の主である。申命記6：4

わたしたちには、父なる唯一の神のみがいますのである。Iコリント8：6

父と子と聖霊との名によって、 マタイ 28：19

1

問 神と永遠とを思う心は、人にそなわっている<sup>1)</sup>ので、すべての宗教は実質的には同じもので、どの神々も同じものの異なったあらわれにすぎないのではありませんか。

答 そのように考えることは間違い<sup>2)</sup>です。罪のために心の暗くなった人間の心にかぶ神々は、ゆがめられた神観念か、**偶像**です。

王下21：1～7、イザ2：8、エレ23：16 ハバ2：18～19、マル12：24、Iコリ12：2、ガラテヤ5：20、Iペテ4：3。

1) 伝3：11、行17：22、ロマ1：20。

2) 王下17：35～36、ホセ4：15、ゼパ1：5。

58 偶像かどちらかです

58 2) 王下7：33 (削除)

2

問 偶像とは何ですか。

答 偶像は、本来存在しないものであ<sup>1)</sup>って、人間の神々を思う心が生んだ観念や感情や欲望の神格化されたものにすぎませ<sup>2)</sup>ん。

- 1) イザ46：9、エレ10：15、Iコリ8：4、コロ3：5。
- 2) イザ44：9～17、ピリ3：19。

## 3

問 聖書の教える神はどのような御方ですか。

答 聖書の教える神は、唯一にいまし、いまさざるところなく、無限・永遠・不変なる、見えざる<sup>4)</sup>霊であって、父と子と聖霊なる三つの<sup>いかく</sup>位格をもち、知恵、力、聖、義、善、真、において完全であられ、愛とあわれみとに<sup>12)</sup>富み、栄光に満ちたもう全き御方であります。そして、イエス・キリストにおいて御自分を啓示され、私たちとの間に人格的関係をつくられる御方であります。

- 1) 申4：35、同4：39、同6：4、イザ44：6、Iコリ8：4、同8：6。
- 2) 詩139：7～10、エレ23：24。
- 3) 創21：33、申33：27、詩90：2、イザ40：28、ロマ16：26、Iテモ1：17。
- 4) マラ3：6、ヨハ4：24、コロ1：5、Iテモ1：17、ヤコ1：17、
- 5) マタ3：16～17、同28：19、ヨハ14：16、IIコリ13：13。
- 6) ロマ11：33、同16：27、エペ3：10、コロ2：3。
- 7) 創17：1、イザ13：6、同14：27、黙1：8、同4：8。
- 8) イザ6：3、同5：16、同43：15、行3：14、黙4：8。
- 9) 申32：4、詩119：137、エレ12：1、ヨハ17：25、ロマ3：21～26。
- 10) 申32：4、エペ1：11、ロマ8：28。
- 11) 詩117：2、エレ10：10、ロマ3：4、IIコリ1：18、Iヨハ5：20。
- 12) 出34：6～7、エレ3：12、ルカ6：36、エペ2：4、Iテモ1：2、ヤコ5：11、Iヨハ4：8。
- 13) イザ6：3、マタ5：48、ヨハ1：14、ロマ11：36、黙4：11。

58 9) エペ1：11 (削除)、13) 申33：18 (削除)

## 4

問 神が御自分をそのような御方として啓示されたのは、どこにおいてですか。

答 まず、イスラエルの歴史においてです。神はこの民を選び、これと契約を結び、導き、贖い、審き、救いたもうことによって、唯一の生ける神と

して御自分を啓示されました。

出6:1～8、ネヘ9:6～37、行7:1～53、ヘブ11:2～12:1。

1) 申4:37、同14:2、詩105:5～6、イザ41:8～9。

2) 創17:1～8、出34:27～28、申29:10～15、詩89:3～4、イザ54:10。

3) 申8:2～7、詩23:1～3、イザ40:11、エゼ34:11～16。

4) 出6:6、申7:8、詩31:5、イザ1:27、同43:1同44:22、同53:1～12。

5) 申32:36、イザ3:13、エゼ18:30。

6) 出14:30、イザ43:3、同45:15、同45:21、同49:26、エレ17:14、ホセ13:4。

## 5

問 神が、その恵みとまこととを最終的に啓示されたのはどこにおいてですか。

答 イエス・キリストの人格とその御業とにおいてです。

エレ33:14～16、ヨハ1:18、同6:46、ロマ1:17、エペ1:9～11、コロ1:15、Iテモ6:16、テト2:11、同3:4。

## 6

問 自然や人生の事実も、神の神性と力とをあらわしているのではないで  
しょうか。

答 たしかに、造られたものは神の神性と力とをあらわしていますが、人間の救いについては沈黙しています。

詩19:1～4、ロマ1:20、行4:11～12。

58 詩19:5～6 (削除)

## 7

問 それでは、人間の救いについては、神はどのように御自分をあらわしておられますか。

答 まず、「天地の創造主、全能の父なる神<sup>⑧</sup>」として示しておられます。

⑧ 使徒信条（「日本キリスト教会信仰の告白」の後半部は使徒信条）。

8

問 創造主とはどういう意味ですか。

答 創造主とは、神がすべてのものを、御自分の栄光のために無から創造し、主権的に、御手の中に保持し、支配しておられることをいうのです。

創1：1、詩33：6、ヘブ1：10。

1) イザ43：7、ロマ11：36、ヘブ11：3。

2) ダニ4：3、同4：34、ユダ25、黙5：13。

3) 詩51：12、イザ45：6～8、マタ6：25～32、同10：29～31、使17：28、ヘブ1：3。

4) 詩83：18、同93：1、エレ10：10、同23：5、黙11：15。

58 イザ42：1（削除）

9

問 神の御支配は、どこに顕<sup>あらわ</sup>れていますか。

答 それは、御手の業である自然や人生の事実にも、摂理として顕れていますが、とくに神が御自分の証しのために選<sup>あ</sup>びたもうたイスラエルの歴史の事実とイエス・キリストをかしらとする教会の歩みとにおいて明らかです。

代上16：8～36、イザ52：7、エペ1：20～23、コロ1：15～20。

10

問 摂理とは何ですか。

答 神が、永遠の御定めに基づき、限りない知恵と愛とによって、世を治め、すべてを神の栄光と人間の幸福とのためになしたもうことを言うのです。

創1:28~31、同8:22、マタ10:29~31、ルカ12:7、同21:18、ロマ8:28。

58 創1:20 (削除)

11

問 「父」という呼び名はどういうことを示していますか。

答 それは、御子イエス・キリストの父<sup>1)</sup>であり、同時に信ずる私たちの父であることを示しています<sup>2)</sup>。そして、知恵と聖と義と愛とに満ち、その恵みとあわれみとの豊かさをもって人間と交わりたもう御方です。

申32:6、イザ63:16、マタ6:26、同7:11、ヨハ6:40、同16:27、IIコリ1:2、IIテサ2:16。

1) ヨハ14:7、IIコリ1:3、エペ1:3。

2) ヨハ20:17。

58 ルカ10:13 (削除)

12

問 「全能」とはどういうことを言うのですか。

答 全能とは、神がその欲したもうすべてのことを、何ものにもさまたげられることなく、御ころのままに、自由になしうることを言うのです。そして、この神の全能は御子イエス・キリストと聖霊<sup>1)</sup>とにおいて、恵みのまっただき自由としてあらわれております。

創18:14、ヨブ42:2、イザ13:6、エレ32:17、同32:27、マル10:27、ルカ1:37。

1) イザ14:24、ロマ9:14~18。

13

問 天地の創造主であって全能の父であられる神は、どのような在り方で、人間の救いのために働かれますか。

答 父なる神は、子なる神、聖霊なる神との一体において、恵みの経綸をな

したまいます。

ヨハ5：17、同5：19～29、同14：16、ロマ3：25、同8：9～17、Iコリ12：3～6、IIコリ13：13。

14

問 父なる神と子なる神と聖霊なる神との関係は、どういうものでありますか。

答 それは三位一体の秘義です。父は「なにもものよりも成らず、造られず、生まれざる<sup>①</sup>」永遠の自存者<sup>1)</sup>。子は父より永遠において生まれたもの<sup>2)</sup>。聖霊は父と子から出でるもの<sup>3)</sup>。いずれも本質を共にし、能力と栄光とにおいて等しく、それぞれ唯一の神の三つの位格です。こうして、唯一の神は、創造主として、救い主として、また同時に、永遠の生命の附与者として働きたもうのであります。

① アタナシウス信条。

- 1) 出3：14、詩90：1～2。
- 2) ヨハ1：1、同1：14、同1：18、同10：30、同13：12、同14：9。
- 3) ヨハ14：26、同15：26、ガラ4：6。

58 において同一

15

問 そのような三位一体なる神の救いの経緯の中心はどこに見られるのでしょうか。

答 それはおのれを低くして受肉された神の御子イエス・キリストにおいてであります。

ヨハ1：14、Iコリ1：30～31、ピリ2：5～8、コロ1：9～14、同2：2～5。

58 三一の神の力強い活動

58 挿入

### 第3章 人間

神は自分のかたちに人を創造された。創世記1：27

すべて罪を犯す者は、不法を行う者である。罪は不法である。Iヨハネ3：4

すべて罪を犯す者は罪の奴隷である。ヨハネ8：34

1

問 創造主なる神は、人間をどのようなものにつくられましたか。

答 神が人間を創造された時、御自分のかたちにかたどって造られました。そしてこれを男と女とに創造されました。

創1：26～28、同5：1～3、同9：6、詩8：5～6、Iコリ11：7。

2

問 神にかたどって創造された時、人間はどのような状態でしたか。

答 完全な状態でした。また、理性も良心も罪にけがされていませんでしたから、その思いも、言葉も、行為も、すべて神のいましめに背くようなことはなく、祝福に満ちた神との交わりのうちにありました。そして、神の中にあるすべての徳を備え、栄えと誉れと自由とをまとい、永遠の生命の中におかれておりました。

創2：8、同2：16、詩8：5～6、伝7：29。

58 創3：8～11 (削除)

58 全く罪のない



## 3

問 どうして、神は人間をそのように、御自分のかたちに造られたのですか。

答 人間が、神の計画と目的とをたすけ、神の家の管理者<sup>1)</sup>として、世界の秩序を保ち、世界が神の栄光をあらわし、また、ほめたたえるためです。<sup>2)</sup><sup>3)</sup><sup>4)</sup>

詩8：4～8。

- 1) Iコリ4：1～2、Iペテ4：10。
- 2) 創1：26、同1：28、詩8：6、IIコリ5：18～19。
- 3) イザ29：23、同43：7、Iコリ10：31、Iペテ4：10～11。
- 4) 詩22：23、イザ24：15～16、マタ5：16、黙4：11、同5：12、同5：13。

## 4

問 それでは、人間に対する神の御期待も大きく、人間の責任もまた、重大であると言われるのですか。<sup>1)</sup>

答 そうです。しかし、人間の現実の有様は恥辱に満ちた、実に悲惨なもの<sup>2)</sup>です。<sup>3)</sup>

- 1) 申7：6～11、アモ3：2、ミカ6：8、ロマ3：10～18。
- 2) 詩89：45、エレ3：25、ロマ1：24～32、ピリ3：19。
- 3) 哀3：17～20、ヨハ15：22、ロマ7：24～25。

## 5

問 どうして、人間はこのようなものになってしまったのでしょうか。

答 始祖アダムが罪に墮<sup>お</sup>ちた結果、そのすえであるすべての人間も真の自由を失い、その全人格が神のかたちを全く損ない、破れたすがたにおいて残されているだけです。<sup>1)</sup><sup>2)</sup>

- 1) 創3：12～13、同3：23、伝7：29。
- 2) 創6：5、エレ17：9、ヨハ8：32～34、ロマ5：14、同6：16。

## 6

問 罪に堕ちたというのは、どういうことですか。

答 それは、人間が神の律法を破り、神から与えられた自由を乱用して、かえって、まことの自由を失ってしまい、欲望と不従順<sup>1)</sup>との奴隷となってしまったことです。

申30：17～18、ホセ6：7～11、ヨハ8：34、Iコリ8：9、ガラ5：13、Iペテ2：16、Iヨハ3：4。

1) エペ2：2、同5：6、テト1：16、ヤコ1：14～15。

## 7

問 人間の墮罪が、自由の乱用のためであるとし、<sup>だざい</sup>墮罪の責任は、人間に自由を与えられた神御自身にもあるのではありませんか。

答 神がなされたことに、決して間違いはありません。人間が自由を与えられたのは、神のみまえに全くなり、神の栄光をあらわすためであるのに、これを自分のために乱用したことに責任があるのです。

1) ヤコ1：13、王上22：19～23、ヨブ40：8、エゼ33：17～20。

2) 出9：27、民23：19、詩110：4、エレ4：28。

3) マタ5：16、同5：48、ロマ6：13、同6：17～23。

4) 詩51：3～4、ガラ5：13。

## 58 責任の一半は

## 8

問 罪とは、どういうものですか。

答 罪とは、人間が神を崇めようとしない、徹底的な不従順<sup>1)</sup>であって、これは、人間の思いの中にも、行いの上にも、はっきりとあらわれています<sup>2)</sup>。すなわち、神が恵みをもって与えたもうた律法の求めをかえりみようとせず、<sup>3)</sup>その上、これに反抗し、ひいては良心を棄てて、<sup>4)</sup>全くけもののように生きる<sup>4)</sup>ことです。

詩 51 : 5、エレ 16 : 10 ~ 11、Iヨハ 3 : 4。

ロマ 1 : 21、同 5 : 19、IIコリ 10 : 6、エペ 2 : 2、同 5 : 6、コロ 3 : 6、ヘブ 2 : 2。

- 1) マタ 5 : 27 ~ 28、同 12 : 36、同 15 : 19、ガラ 5 : 19 ~ 21、ヤコ 4 : 17。
- 2) イザ 5 : 24、アモ 2 : 4、ホセ 8 : 1、Iテモ 1 : 8 ~ 11、ヤコ 4 : 11 ~ 12
- 3) Iテモ 1 : 19、同 4 : 2、テト 1 : 15。
- 4) ユダ 10 : 11。

## 9

問 罪の奴隷となってしまった人間の現実の状態は、どんなありさまですか。

答 人間が神と人にとに仕えようとせず、自己中心となり、自分の利益と榮譽とをだけ求めることです。これは、結局、おのが恥を光榮とし、おのが腹を神とする偶像崇拜となってあらわれます<sup>2)</sup>。また、他のものを自分の欲望の犠牲とすることによって、分裂・対立・抗争を生み出し<sup>3)</sup>、人間全体が神の敵となるばかりでなく、人間が人間の敵となってしまう<sup>4)</sup>、自分をも世界をも、全く滅亡の淵に追い込んでいます<sup>5)</sup>。

イザ 29 : 13 (マタ 15 : 9)、ロマ 1 : 18 ~ 31。

- 1) ヨシ 7 : 19 ~ 21、箴 21 : 26、マタ 26 : 14 ~ 16、Iテモ 6 : 10。
- 2) ロマ 6 : 21、同 16 : 18、ピリ 3 : 19、ユダ 13。
- 3) ロマ 2 : 8、IIコリ 12 : 20、ガラ 5 : 20。
- 4) 詩 41 : 9、同 55 : 12 ~ 13、ミカ 7 : 6、マタ 10 : 36、同 24 : 7。
- 5) ガラ 5 : 15、IIテサ 1 : 9。

## 10

問 どうしたなら、このような罪を正しく認識することができますか。

答 それは、神がイスラエルに与え、旧約聖書に記された律法において、明らかにされています。

出 20 : 2 ~ 17、申 5 : 6 ~ 21、同 27 : 26、ロマ 3 : 20、同 7 : 7。

11

問 罪の**実態**が、最終的に**あらわ**に顕れているのはどこですか。

答 イエス・キリストを**十字架につけたこと**です。

マタ 27 : 22 ~ 26、ヨハ 19 : 14 ~ 16、行 2 : 22 ~ 23、ピリ 3 : 18、ヤコ 4 : 4。

58 実相

58 の十字架において

58 イザ 53 (削除)

12

問 神は罪に対して、どういう態度をおとりになられますか。

答 罪は**まこと**をもって、計画をすすめられる神への背反ですから、必ず、神の怒りと呪いとを招きます。それゆえ、神はきびしい審判と刑罰とをもってのぞみたまいます。

伝 12 : 14、アモ 3 : 2、マタ 25 : 46、ヨハ 3 : 36、ロマ 1 : 18、同 2 : 2 ~ 5、ガラ 3 : 10、エペ 5 : 6、コロ 3 : 5 ~ 6、黙 18 : 20。

58 恵みとまこととをもって、救いの

13

問 神の審判の行われる時は、いつですか。

答 終わりの日です<sup>1)</sup>。しかし、人間の希望のない悲惨な現実<sup>2)</sup>も、そのまま、神の審判を示すものです。こうして、神の正しい裁きの顕れる最後の日のために、神の怒りを、自分の上につみ重ねているのです。

1) エゼ 7 : 5 ~ 9、アモ 5 : 18 ~ 20、マタ 16 : 27、ヨハ 12 : 48、ロマ 14 : 10、  
II コリ 5 : 10、II テモ 4 : 1。

2) イザ 48 : 22、ロマ 2 : 8 ~ 9、同 3 : 16。

14

問 実におそろしい現実です。しかし、世の人々はこうしたことに案外無関

心で、滅びの途<sup>みち</sup>を歩んでいることも気づいていないのではないのでしょうか。

答 そうです。罪のおそろしさは人間の霊も肉も腐敗させてしまうばかりでなく、真におそるべきものをおそれる心を失わせてしまうことです。

詩 36 : 1 ~ 4、箴 12 : 15、マタ 7 : 13、ロマ 1 : 21 ~ 22、同 3 : 16 ~ 18。

15

問 罪に対する神の刑罰は何ですか。

答 永遠の死です。

ロマ 6 : 21、同 6 : 23、黙 2 : 11、同 20 : 6、同 20 : 14、同 21 : 8。

16

問 そのようなおそろしいことが、始祖アダム<sup>1)</sup>の墮罪の結果として、そのすえである私たちに及ぶのですか。

答 そうです。

ヨブ 15 : 14、詩 51 : 5、同 58 : 3、ロマ 5 : 12 ~ 19、I コリ 15 : 21 ~ 22、エペ 2 : 3。

17

問 しかし、人間はひとりで、神と人との前に立っているわけではありませんか。アダムはアダム、私たちは私たち<sup>1)</sup>ではありませんか。

答 人間は、あなたの言われるような、個々別々の存在ではありません。罪は、アダムから出てアダムにあるすべての人においておかさ<sup>1)</sup>れ、伝わっていきます。その連帯性が人間全体をつつみ、また、とらえている原罪の事実を深く思わなければなりません。

創 6 : 5、詩 53 : 3、ロマ 3 : 10、同 5 : 12、エペ 2 : 3。

1) エゼ 18 : 1 ~ 32。

## 58 連帯責任性

18

問 そうしますと、人間はみな原罪を担って生まれたのですか。

答 そうです。聖書には人間はみな「生まれながらの怒りの子」<sup>1)</sup>だと言われているとあります。

1) エペ2:3、Ⅱペテ2:14。

19

問 それでは、人間は、ただ宿命的に罪と死との中に、うちすてられているのでしょうか。

答 そのように暗く考えてはなりません。神が人間をどこまでも見棄てられることなく、人間を新たにつくり、神の子とされようとする恵みの意図<sup>1)</sup>は、イエス・キリストの救いの御業の中にあきらかに<sup>2)</sup>顕<sup>あらわ</sup>されております。

イザ45:17、エゼ36:26～28、ヨハ3:16～17、エペ1:3～5、Ⅰテモ2:4、Ⅱペテ3:9。

1) エゼ18:31、同37:1～10、ヨハ3:3、Ⅱコリ5:17、ガラ6:15。

2) ロマ8:14～17、ガラ4:6、ヘブ12:6～11、Ⅰヨハ3:1。

20

問 それは、神の永遠の恵みの計画ですか。

答 そうです。神は罪人を贖い出し、終わりの日には「神のかたち」に栄化しようとして、世の始めから、イエス・キリストによって、救いの御業を成し遂げることを、自ら定められたのです。

イザ46:8～13、マタ25:35、ロマ3:21～26、同8:29、エペ1:3～5、Ⅰテサ5:23～24、黙3:5、同13:8。

## 第4章 仲保者

神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである。Iテモテ2:5

1

問 主なるイエス・キリストはどういう御方ですか。

答 旧約聖書の中に証しせられているメシア<sup>1)</sup>であって、「真の神にして真の人」、神が神であることをやめることなしに、受肉して、人となられ、こうして、神と人との間の恵みの契約の仲保者<sup>4)</sup>となられた御方です。

- 1) イザ9:6~7、同11:1~9、ダニ9:25、ヨハ1:41、同4:25。
- 2) ヨハ1:14、ロマ9:5、ガラ4:4、Iテモ3:16、ヘブ2:14、Iヨハ4:2、IIヨハ7。
- 3) ピリ2:6~8、ヘブ5:7、Iテモ2:5。
- 4) IIコリ5:19、Iテモ2:5、ヘブ8:6、同9:15、同12:24。

2

問 神が人となられたということは、イエスのたぐいがない人格が人々にそう思い込ませるようになったのではありませんか。

答 そういう考えは明白な聖書の証しと一致しません。元来、ユダヤ人は純粹な唯一神教を奉じた民族で、イエスの弟子たちも、そういう厳格な神観<sup>1)</sup>の中で育った人々です。それでもなお、イエス・キリストを神として崇めた<sup>2)</sup>ということには、深い根拠がなければなりません。

ヨハ1:14、同5:18、同10:30~33、同19:7。

- 1) 出20:1~7(申5:7)、申6:14~15、王下17:35、イザ45:18。

2) マタ 16:16、ヨハ 20:28、ロマ 9:5、行 9:20、コロ 1:15～16、ヘブ 1:3。

## 3

問 それにしても、どうして神が人となられる必要があったのでしょうか。

答 罪は人間性においておかされたのですから、人間の中からこれを除くためにはどうしても神が人とならなければならなかったのです。

マタ 20:18、ロマ 5:15、ガラ 4:4～5。

## 4

問 イエス・キリストの御生涯に「真の神にして真の人」であることを立証するような事実がありますか。

答 もちろんです。私たちがイエス・キリストをそう信ずる信仰は、キリスト御自身の証しに**対する**告白応答です。その証しに基づいてしるされた使徒信条には、「我は、その独子、我らの主イエス・キリストを信ず。主は、聖霊によりてみごもられ、処女マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦難を受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府にくだり、三日目に死者のうちより復活し、天にのぼりて全能の父なる神の右に座し給う。かしこより来りて、生ける者と死にたる者とを審き給わん」と告白されております。この中の事実はことごとく「真の神にして真の人」であることを示しております。

ルカ 1:35、行 10:38、Iテモ 2:5～7、同 3:16、ヘブ 7:20～25。

58 対して、人間のささげる

## 5

問 御子がイエスと名づけられたもうたのには、特別な意味がありますか。

答 イエスとは「神は救いたもう」という意味で、唯一の救い主<sup>1)</sup>の御生涯をあらわしております。



マタ 1 : 21、ルカ 1 : 31、行 5 : 30 ~ 31。

1) ルカ 2 : 12、ヨハ 4 : 42、行 5 : 31、同 13 : 23、Ⅱペテ 3 : 2、同 3 : 18。

6

問 キリストと呼ばれたのは、どういう意味ですか。

答 キリストと呼ばれたのは、メシアすなわち**油そそがれた者**という意味です。旧約聖書において、特に、**預言者・祭司・王**たちが油そそがれてそのつとめに任ぜられたように、主は聖霊によって油そそがれて、私たちのために、永遠に**預言者・祭司・王**となられた御方です。

行 4 : 27、詩 45 : 7、ルカ 13 : 33、ヨハ 18 : 37、ヘブ 7 : 24。

1) レビ 8 : 30、イザ 61 : 1、サム上 9 : 16。

58 受膏者

58 祭司・予言者・王

7

問 キリストは預言者として、どういうつとめをされますか。

答 神の御旨を啓示し、真理の言葉をのべることです。

ヨハ 1 : 17、同 8 : 12、同 14 : 6、同 15 : 15、行 3 : 22 ~ 26 (申 18 : 15)、コロ 2 : 3、Ⅰヨハ 5 : 20。

58 7、8問の順序が入れ替わる

8

問 キリストは祭司として、どういうつとめをされますか。

答 彼の民を代表して、贖いのために犠牲をささげて、執り成しをされることです。

詩 110:4、レビ 4:35、同 7:35～38、同 9:5～8、ロマ 3:25、同 8:34、  
II コリ 5:21、ヘブ 5:6、同 7:15～22、同 9:11～28、I ヨハ 2:1。

## 9

問 キリストは王として、どういうつとめをされますか。

答 神の主権をもって統治し、神の国を来たらせ、これを成就されることで  
す。

詩 2:6～9、同 110:1、ルカ 1:32～33、ロマ 8:28、I コリ 15:24～25、エペ 1:  
22～23、黙 11:15。

## 10

問 主が「聖霊によりてみごもられ、処女マリヤより生れ」たもうたことは  
何を示しますか。

答 イエス・キリストが、神から出た真の神、処女マリヤから生まれた罪な  
き真の人、神性ととともに人性をも持たれて、すべての人と同じように、時  
間と空間との中に生きられた御方であることを示します。

マタ 1:18、ルカ 1:27～35、ヨハ 1:14、ロマ 1:3～4、ガラ 4:4、I テモ 3:  
16、ヘブ 2:14～15。

58 テト 2:14 (削除)

## 11

問 使徒信条には、イエス・キリストの死と復活と昇天と再臨とがしるされ  
ているだけで、主の生涯の他の部分については、何ら、しるされておりま  
せんが、どういうわけでしょう。

答 主の生涯の他の部分を終わりの部分と関係のないものとして切り離すこ  
とはもとよりできません。しかし、とくにその終わりの<sup>1)</sup>ことがらだけがし  
るされているのは、救い主としての御業が、この時に決定的になされたの  
で、終わりの部分こそまことに主の生涯における「わが時」「栄光を受く

べき時」であったからです。

マタ 20:28、ヨハ 7:6～8、同 12:23～24、同 12:32、I コリ 1:23、同 15:3～5、エペ 2:16。

1) ピリ 2:6～11、ヘブ 2:17～18、同 5:1～10。

58 ヨハ 7:9、I コリ 1:22

58 1) ピリ 2:1～5 (削除)

12

問 仲保者とはどういうつとめをするものですか。

答 私たちを神と和解させるつとめをされる御方です。

ヨハ 17:22、ロマ 5:1、II コリ 5:18～21、エペ 2:14～18、コロ 1:21～22。

13

問 どうして、イエス・キリストだけが、神と人との間の唯一の仲保者なのですか。

答 罪ある人間が、他の罪ある人間のために仲保のつとめをすることはできません。まことの仲保者は神のみまえに人間の責任を負い、神の義を満たして、執り成しをなしうる真の人でなければなりません。神は実に主イエス・キリストにおいて、この途を取りたもうたのです。

I テモ 2:4～6、ヘブ 7:22～28、同 8:6～13、I ヨハ 2:1。

1) イザ 53:4、マタ 20:28、ガラ 3:13、ヘブ 9:28、I ペテ 2:24。

2) イザ 53:11、マタ 5:17、ロマ 5:19、I コリ 1:30、エペ 5:2、I テモ 3:16、ヘブ 7:22、同 9:14、I ヨハ 2:1～2。

3) イザ 53:12、ロマ 8:34、ヘブ 7:25。

58 ヘブ 6:17 (削除)

## 14

問 イエス・キリストが、仲保者としてのつとめを果たされるためにおとりになった、真の神としての立場と真の人としての立場との関係は、どうい  
うものですか。

答 それは、主が神の独子として、父なる神の御旨に従い、<sup>1)</sup> 私たちの救いの  
ために、人となられ、そして人間の側に立ってこれを成就されたことです。  
すなわち、イエス・キリストは罪人を恵みをもって選びたもう神でありつ  
<sup>2)</sup> つ、同時に、<sup>3)</sup> 選びを受けた人、<sup>4)</sup> 救いを呼び求めてこれを与えられた人です。  
このことは、アダムの墮罪によって失われた神の義と神に対する平和と  
を、はじめて回復し成就されて、<sup>5)</sup> おわりのアダムとなられたことを意味  
するもので、<sup>6)</sup> こうして、主はまことの仲保者となられたのです。この事実こ  
そ、<sup>7)</sup> 信ずるものに与えられる恵みの契約のもといです。

- 1) ヨハ6:38～40、エペ1:3～5。
- 2) 申7:6、ヨハ15:16、同15:19、エペ1:4。
- 3) イザ42:1、マル1:2、ルカ9:35。
- 4) ヨハ12:27、ヘブ4:15、同5:7。
- 5) エレ23:5～6、ロマ5:1、Iコリ1:30、エペ2:14～16、Iペテ1:1。
- 6) ロマ8:29、Iコリ15:20～23、同15:45、コロ1:18～22。
- 7) ヘブ8:6、同9:15。

## 15

問 イエス・キリストが、主と呼ばれておられるのも王というのと同様な意  
味ですか。

答 いいえ。主という言葉はキリストの職能をさして言うよりも、むしろ、  
権力と力とをもって私たちを贖い、導きたもう救いの主に対して、人間の  
ささげる崇めと信頼と服従のまことを込めた呼び名です。

ヨハ20:28、ロマ10:9、Iコリ8:6、同12:3、IIコリ4:5、ピリ2:11、コロ2:  
6、IIテサ1:10～12、Iペテ3:15。

16

問 イエス・キリストは、御自分でまことの仲保者であることを意識しておられたのでしょうか。

答 もとより意識しておられました。それは御自分を「子」と呼ばれたことにもっとも明らかにあらわれております。主は、神の子であり、同時に人の子であられました。

マタ 20 : 28、同 26 : 24、ヨハ 5 : 19 ~ 22、同 6 : 40、同 14 : 13。

1) ヨハ 1 : 14、同 1 : 18、同 3 : 16。

2) マタ 11 : 19、ルカ 9 : 22、ヨハ 13 : 31。

17

問 イエス・キリストよりほかに、仲保者はありますか。

答 私たちの神と人との間の仲保者はほかにありません。それゆえ、イエス・キリスト以外のもの、たとえば、マリヤや聖者の執り成しなどは全く誤りです。

行 4 : 12、I テモ 2 : 5。

58 行 4 : 13 (削除)

18

問 しかし、旧約の祭司や、そのささげる犠牲などは仲保的な性質をもっているではありませんか。

答 そうです。しかし、それは仲保者イエス・キリストを予表しているので、実体と影のような関係にありますから、イエス・キリストの事実の光に照らされるときにだけ、その仲保性が本当の意味をもってくるのです。

コロ 2 : 17、ヘブ 9 : 9 ~ 15、同 10 : 11。

## 第5章 十字架の贖い

人の子が来たのも、仕えられるためではなく、仕えるためであり、また、多くの人のあがないとして、自分の生命を与えるためである。マタイ 20：28

神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。わたしたちは、この御子によってあがない、すなわち、罪のゆるしを受けているのである。コロサイ 1：13～14

1

問 生まれながら罪の奴隷である人間に、律法が与えられたのはどういう意味でしょう。不可能を強いるものではありませんか。

答 律法は、本来は神の人間に対する恵みの**契約**に基づくものでありましたが、今や罪人にとっては、その罪を責め、死を宣言するものとなりました。

申 17：18～20、ヨシ 1：7、詩 119：1～5、ロマ 7：12。

1) 詩 14：1～3、ロマ 5：12、同 6：12。

2) ロマ 3：19～20、同 4：15、同 7：7～13、ガラ 3：10。

58 契約のもとい

58 1) ロマ 7：7 (削除)

2

問 それでは、律法のもとにある人間には、もはや、生きる希望がないのですか。

答 いいえ。神は愛なので、人間がひとたび律法に死んで、新たに慰みのもとに生きる途を、キリストによって開かれたのです。

エゼ33：11、ロマ7：4、ガラ2：19。

1) 出34：6、申4：31、ネへ9：26～31、ヨハ3：16～17、ロマ5：5、同5：8、  
エペ2：4、Iヨハ4：8、同4：16。

2) ロマ5：2、同8：1～4、IIコリ8：9、ガラ2：20～21、ヘブ10：20。

58 愛なる神は

3

問 それは、どういうことですか。

答 イエス・キリストの十字架の贖いです。

レビ4：20、民15：25～26、マタ20：28、ガラ3：13、エペ1：7、ヘブ9：11  
～12、同9：14～15、Iペテ1：18～19、黙5：9。

4

問 神は、イエス・キリストの十字架において、御自分をどのように、<sup>あらわ</sup>顕  
れましたか。

答 神は、御自分が罪人を審き<sup>1)</sup>つつ救<sup>2)</sup>す、愛の神であることを、明らかにさ  
れました。それは、神が永遠の計画を成就されるために、自らの義を立て、  
しかも、ただ恵みをもって罪人を救<sup>3)</sup>われる方であるからです。

イザ45：21、同52：3、同54：4～6、ロマ1：17。

1) 創18：25、エゼ18：30、ヨハ5：22、同5：27、同9：39、使10：42、ロマ2：2。

2) ネへ9：16～17、エレ33：8、アモ7：2～3、マル2：10、ルカ23：34、行5：  
31、コロ1：14、Iヨハ1：9。

3) 出34：6～7、ロマ3：21～26、エペ2：4～7。

58 ロマ3：21～26、1) ヘブ12：3、2) 出34：9 (削除)

5

問 イエス・キリストは、十字架において何を成就されましたか。

答 キリストは罪なき生を完成されて、神の義を満たし、これを成就されま

した。すなわち、死に至るまで、十字架の死に至るまで従われ、こうして神に全き服従をささげ、人間のなすべくしてなしえぬこと<sup>1)</sup>を果たされました。これは、人となられたイエス・キリストが、父なる神と一体なるひとり子としてなされたこと<sup>2)</sup>であって、こうして、神は人間の中に神の義を成就されたのです。

ピリ2：6～11、ヘブ5：7～10、Iコリ1：30。

1) イザ53：3～5、ロマ8：3、ヘブ10：1～10、Iペテ3：18。

2) ヨハ5：36～37、同10：30、同14：10。

58 ヨハ10：24～25 (削除)

## 6

問 義なるイエス・キリストは、どのようにして罪を赦したまいましたか。

答 イエス・キリストは十字架において、その無比なる愛のゆえに、御自分を罪人の場所におかれ、人間の受けるべき律法の呪いを受け、陰府にまでくだり、神の遺棄<sup>1)</sup>を味わわれました。主はこの神の怒りと呪詛、審判と刑罰とを罪人に代わってのこりなく受けられることにより、神の義をあらわし、同時に、赦罪の根拠をお立てになりました。

イザ53：1～12、マタ20：28、ルカ22：37、IIコリ5：14、同5：21、ガラ3：13、ヘブ7：27、同9：11～12、同9：26～28。

1) マタ27：46、詩22：1。

## 7

問 しかし、そのような悲惨な死は悪魔に対する勝利ではなくて、むしろ、敗北なのではありませんか。

答 いいえ。そうではありません。キリストはこれを人間的な運命として受けられたのではなく、自ら進んで**負われた**<sup>1)</sup>のです。主が人間に代わって負われた十字架こそ、罪と悪魔のちからとを打破した神の勝利<sup>2)</sup>でありました。



- 1) マル8：31、ルカ12：50、ヨハ12：23～24、同19：30。
- 2) Iコリ15：25～26、同15：54～57、ヘブ2：14、Iヨハ3：8、黙17：14。

58 これを負われた

8

問 イエス・キリストの十字架によって、私たちの救いのために何が成し遂げられましたか。

答 神は<sup>なだ</sup>宥めの供物なるイエス・キリストの犠牲によって、永遠の贖いを成就し、これによって人間を罪の束縛から<sup>2)</sup>解き、その罪過を取り去り、罪人を御自分に対して<sup>やわら</sup>和がしめ、<sup>4)</sup>子たることを得させた<sup>5)</sup>もうたのです。

- 1) ヘブ9：12。
- 2) ロマ3：24、同10：14、コロ1：14、黙1：5。
- 3) エペ2：5、コロ2：14、ヘブ9：15。
- 4) ロマ5：10、IIコリ5：18、同5：20、エペ2：14～18。
- 5) ロマ8：14～17、ガラ4：4～5、Iヨハ3：1。

58 2) ロマ8：23 (削除)

9

問 イエス・キリストが御自分を犠牲とされたというのは、どういうことですか。

答 人間を神に執り成すために、大祭司のつとめをされたことであります。

イザ53：12、ロマ8：34、ヘブ7：25、同9：24。

10

問 キリストの祭司職は、旧約の祭司職と同じ性質のものでしたか。

答 いずれも、神と人とを和がせ、恵みの契約にあずからせるつとめであったことでは同じです。しかし、その相違する点は、第一には、イエス・キリストは御自分を犠牲として<sup>1)</sup>献げられ、しかも、ただ一度の犠牲によっ

<sup>2)</sup>て、このつとめを永遠に成就されたこと<sup>3)</sup>、第二には、旧約の犠牲はそれ自体には力がありませんでしたが、<sup>4)</sup>キリストの犠牲は神に喜ばれる永遠の犠牲であり、同時に、人間の中に神の義を建て、人間をきよめる力のあるものであったことです。

ヘブ8：8～13（エレ31：33～34）。

- 1) ロマ3：25、ヘブ9：12～14。
- 2) ヘブ9：25～28、ヘブ10：10、同10：12～14。
- 3) ヘブ7：28、同9：12。
- 4) ヘブ10：1、同10：4。
- 5) ヘブ9：14、同10：12～14。
- 6) ヨハ1：29、ヘブ9：14、同10：10。

58 3) 黙13：8（削除）

## 11

問 主の贖いにあずかる人は誰ですか。

答 神の恵みの選びにより召されて、信ずるもの<sup>1)</sup>とされたものです。

ヨハ15：16～19、ロマ8：28～30、エペ2：8～10、テト1：1、ヤコ2：5。

- 1) ヨハ1：12、同3：16、同6：40、ヘブ4：2。

58 1) Iヨハ4：14（削除）

## 12

問 それでは、滅びの子があるのは、どういうことですか。

答 私たちには、この大きな秘義を完全に知ることは許されておりませんが、ただ一つのことだけは明らかです。それは、この救いと滅びとにおいて神の栄光が<sup>あらわ</sup>顕れ、贖われたものが世の始めの前から屠られたもうたキリストを崇めるようになるためだ、ということです。

マタ16：27、同19：28、同25：31～46、ヨハ17：12、IIテサ2：3、黙11：16～19、同14：7、同16：4～9、同18：20。

## 第6章 復活

わたしはよみがえりであり、生命である。わたしを信ずるものは、たとえ死んでも生きる。ヨハネ 11：25

神はこのかたを死人の中からよみがえらせ、その確証をすべての人に示されたのである。使徒 17：31

1

問 イエス・キリストの復活は、どういう出来事でしたか。

答 キリストは十字架につけられ、死にて葬られ、三日目に死者の中からよみがえり、**四十日の間、弟子たちに顕れたまいました。**

マタ 28：1～10、マル 16：1～14、ルカ 24：1～49、ヨハ 20：1～29、行 1：3、I コリ 15：3～8。

58 弟子たちにあらわれ、四十日の間、かれらとともにおられました

2

問 復活は、どういう根拠で信ずることができますか。

答 イエス・キリストの復活は、イエス・キリスト御自身が、明白にしばしば語られたことであり、旧約聖書の預言の成就であり、主の復活の証人である使徒たちも、その目撃者であったからです。

1) マタ 16：21、同 17：22～23、同 20：19、同 26：32、マル 8：31、同 9：9、同 9：31、ルカ 9：22、ヨハ 11：25。

2) ホセ 6：7、詩 16：10、イザ 9：6～7、エレ 23：5～6、ダニ 7：13～14、ミカ 5：

- 2、行2：25～32。  
 3) 行2：32、同3：15。  
 4) マタ26：17、マル16：9、同16：12、同16：14、ルカ1：1、同24：32、ヨハ20：18、同20：20、Ⅱペテ1：16。

## 3

問 神は、イエス・キリストの復活によって何をあらわされましたか。

答 十字架が神の救いの能力であることを実証されました。キリストのよみがえりを知らない者には、主の十字架は単に人間の悲劇的な出来事にすぎません。復活によって十字架は信ずる者を義とする神の力となります。

詩16：10、マタ28：5～7、マル16：6～7、ルカ24：39、46、ヨハ2：25、同20：19、27、行2：24、31～32、ロマ6：4～5。

- 1) ルカ24：19～26、Ⅰコリ15：12～19、Ⅱテモ2：18～19。  
 2) ロマ4：24～25、Ⅱコリ4：14、ガラ1：1、エペ2：6、ピリ3：10～11、コロ2：12～13、Ⅰペテ1：3～4、同3：21。

- 58 どうしてイエス・キリストをよみがえらせたまいましたか  
 58 キリストがよみがえりたまわなかったならば  
 58 十字架は信ずるものに救いを得させる  
 58 ロマ4：24～25 (削除)

## 4

問 そうしますと、十字架と復活とは、どういう関係になりますか。

答 たがいに切り離すことのできない、同じ救いの御業の二つの出来事です。そして、十字架の中には復活の力が秘められており、復活は十字架を全うするものです。

ロマ4：25、同6：3～11。

## 5

問 復活はイエス・キリスト御自身において、どういう意味をもちますか。

答 イエス・キリストが、死人の中からよみがえり、最後の敵である死に打ち勝ち、永遠の生命の保証となりたもうたことです。

行 17:31、I コリ 15:20～23、同 15:26、II テモ 1:10、黙 20:14。

6

問 復活は私たちにとって、どういう意味を持ちますか。

答 私たちが復活の主を信ずることによって、新しい義<sup>1)</sup>と生命を与えられ、永遠の生命の希望と約束とにかたく立たせられ、栄光のうちによみがえら<sup>2)</sup>されるのです<sup>3)</sup>。

ロマ 8:11、I コリ 6:14。

- 1) ヨハ 14:1～19、ロマ 6:4、I コリ 15:45、エペ 4:23～24。
- 2) 行 17:31、II コリ 1:9、I テサ 4:13～18、テト 3:7、I ペテ 1:3、同 1:21。
- 3) ロマ 6:5、II コリ 4:14、エペ 2:4～6、ピリ 3:10～11、コロ 2:12。

58 挿入

58 死人の中から

7

問 主の復活が、私たちの永遠の生命の保証となるのは、どういうわけですか。

答 イエス・キリストがよみがえりの初穂<sup>1)</sup>となられたことによって、現在、私たちが永遠の生命にあずかることだけでなく、死後においては主と共に<sup>2)</sup>おり、終わりの日には体のよみがえりを与えられることの保証<sup>3)</sup>となられたからです。

ヨハ 6:39、同 11:23～26。

- 1) I コリ 15:20、コロ 1:18。
- 2) I コリ 15:23、I テサ 4:16。
- 3) ロマ 8:23、I コリ 15:44。

8

問 イエス・キリストの復活を通して、この世に何がもたらされましたか。

答 罪によって死んだ者を生かし、始祖の墮落によって全く損なわれてしまった神のかたちを、再び創造<sup>1)</sup>されることによって、新しい時代<sup>2)</sup>を来たらしめたまいしました。

ヨハ11：25～26。

- 1) ロマ8：29、Ⅱコリ5：17、ガラ6：15、エペ2：10、同4：24、コロ3：10。
- 2) イザ65：17、同66：22、Ⅱコリ5：17、Ⅱペテ3：13、黙21：1～5。

58 失われて

9

問 イエス・キリストは復活されたときに、人間性をぬぎさって、永遠の神の御子に帰られたのでしょうか。

答 いいえ。主は復活の勝利によって、もはや人間性の弱さにまどわれておられません、なお、人なるイエス・キリストとしてとどまっておられ、そうして、私たちの救いのために、つとめをつづけておられます。

Iテモ2：5、ヘブ4：14～15、同5：2～3、同5：7～10、同6：20、同7：24～25。

58 たたかいと勝利の復活とにおいて、人性の中にある弱さを克服されましたが

## 第7章 昇天

主イエスは彼らに語り終ってから、天にあげられ、神の右にすわられた。

マルコ 16 : 19

キリストは天に上って神の右に座し、天使たちともろもろの權威、権力を  
従えておられるのである。Iペテロ 3 : 22

1

問 イエス・キリストの十字架と復活とに次いで、何が起こりましたか。

答 主はよみがえりたもうてから、四十日の間、**弟子たちに顯れ**<sup>あらわ</sup>、神の国の  
ことを語り、御言の宣教を命じ、聖靈の降臨を待つべきことをさとされた  
のち、<sup>1)</sup>彼らの目の前で天に挙げられたまいました<sup>2)</sup>。

マル 16 : 19、ルカ 24 : 51。

1) 行 1 : 4 ~ 5、同 2 : 33

2) 行 1 : 9 ~ 11。

58 弟子たちとともにおられ

2

問 天に昇られたとは、どういうことですか。

答 それは、神のいましたもうところに昇られた、という意味です。

詩 2 : 4、同 11 : 4、マタ 5 : 34、同 7 : 11、同 16 : 17、ヨハ 6 : 38、エペ 1 : 20、  
ピリ 3 : 20、ヘブ 9 : 24。

## 3

問 それでは、イエス・キリストは世から離れ、もはや人間とは無関係になってしまわれたのですか。

答 いいえ、そうではありません。主が肉体をもって地上を歩まれた間は、時間と空間との制限の中におられました。今や御言と聖霊とにおいて、いつでも、どこでも、私たちと共にいたもうのです。

マタ 18 : 20、同 28 : 20、ヨハ 14 : 16 ~ 17、行 18 : 10。

## 4

問 イエス・キリストが挙げられたもうたとは、何を意味しますか。

答 神の恵みの御計画にこたえ、これを満たされたので、神と共にある栄誉の場所に移されたのです。

ヨハ 17 : 5、同 17 : 24、I コリ 15 : 25、エペ 1 : 20 ~ 22、ヘブ 1 : 3、I ペテ 3 : 20。

## 5

問 それでは、イエス・キリストの昇天によって、私たちの救いのために何がなされましたか。

答 主は私たちの先達として天に昇り<sup>1)</sup>、天に至る道を開き<sup>2)</sup>、永遠の大祭司として神の御前にあって、終わりの日まで執り成しのつとめをなさいます<sup>3)</sup>。

1) ヘブ 4 : 14、同 6 : 20、同 12 : 2。

2) ヨハ 10 : 3、同 14 : 2 ~ 6、黙 3 : 7 ~ 8。

3) ロマ 8 : 34、同 7 : 25。

## 6

問 執り成しとは何ですか。

答 恵みの選びにあずかった人間が、終わりの日まで義と永遠の生命の確か



さと希望との中に生きることができるように、神のあわれみを求めたもうことです。

ロマ8:34、ルカ22:32、ヨハ6:39、同14:16、ヘブ9:24、同7:25、Iヨハ2:1～2。

1) 申7:8、ロマ9:10～16、同11:5。

7

問 昇天の主が、神の右に座したもうたというのは、どういうことですか。

答 神の右に座したもうたとは、神の大権の座につかれたこと、を言うのです。

詩110:1、マタ25:31、同26:64、同28:18、エペ1:20～22、ピリ2:9～11。

8

問 それは、どういうことですか。

答 真の神であって、同時に真の人であるイエス・キリストが、万物を統治することを神から委ねられたことです。

イザ9:6～7、ルカ1:32～33、ヨハ3:31～36、同5:22、同13:3、同17:2、Iコリ15:25、エペ1:10、同1:20～22、黙11:15。

9

問 イエス・キリストの支配は、具体的には何によってなされるのですか。

答 教会によってです。キリストは教会の主として、支配と恵みの御計画とを遂行されるのです。

マタ2:8～28、ヨハ5:22、IIコリ5:18～20、エペ1:22～23、同3:10～11、コロ1:15～20、Iテモ3:15。

(但し 79 年版付加のマタ 2 : 8 ~ 28 は意味不明)

10

問 それでは、キリストはただ教会だけの主なのですか。

答 いいえ、キリストは歴史の主として、世界とその中のすべての出来事とを支配しておられます。

詩 93 : 1、ヨハ 1 : 9 ~ 11、同 3 : 31、同 17 : 2、コロ 1 : 15 ~ 17、黙 17 : 14、同 19 : 15 ~ 16。

11

問 教会におけるイエス・キリストの支配と広い意味の世界の支配とは、どういう関係があるのですか。

答 人間の全歴史は、根本的に言いますと、救贖と創造との歴史ですから、主はその御計画を教会によってなされ、それによって世を支配されるのです。

申 14 : 2、同 15 : 6、ダニ 6 : 25 ~ 28、ヨハ 17 : 24、行 1 : 8、I コリ 15 : 24 ~ 28、II コリ 5 : 17 ~ 19、ピリ 2 : 9 ~ 11、コロ 1 : 18 ~ 20、黙 5 : 9 ~ 10。

12

問 そうしますと、今は教会の時、とすることができますか。

答 そうです。受肉者イエス・キリストの歴史的啓示の時の後に、主の昇天と聖霊の降臨によって新たに教会の時ははじめられたのです。

行 1 : 8、エペ 1 : 21 ~ 22、同 3 : 10、同 3 : 21、I テモ 3 : 15、テト 1 : 3、ヘブ 2 : 12。

13

問 この教会の時の特徴は何ですか。

答 サタンの支配は、すでにイエス・キリストによって破られ、今や新たな恵みと創造との世界が開かれたのですが、人間の不従順と不信仰とのゆえに、なお、世は罪にいざなわれています。そこで、この世界は、なお、神の忍耐と赦しとのもとにありますから、教会にとって、今は伝道の時、戦闘の時です。

マタ 10 : 16、行 14 : 22、ヨハ 16 : 33、エペ 6 : 10 ~ 20、I テモ 6 : 12、ヘブ 10 : 32、I ペテ 2 : 9、ユダ 3 ~ 4、黙 2 : 1 ~ 3 : 22、同 13 : 1 ~ 10。

1) ロマ 15 : 4 ~ 5、II テサ 3 : 5、II ペテ 3 : 9、黙 1 : 9。

14

問 教会の時は、いつまでつづくのですか。

答 終わりの日、主の再び来たりたもう時までつづきます。それゆえ、今は中間の時です。

マタ 24 : 13 ~ 14、行 14 : 22 ~ 23、ロマ 13 : 11 ~ 14、II コリ 4 : 17、コロ 1 : 24 ~ 29、ヤコ 5 : 7 ~ 11。

15

問 教会の時間が終わって、主イエス・キリストの再び来たりたもう時は、いつですか。

答 その日その時は、ただ神のみ知りたもうところです。

マタ 24 : 36、マル 13 : 32、ルカ 21 : 34、行 1 : 6 ~ 7、I テサ 5 : 2、II ペテ 3 : 10。

16

問 その時には、どのようなことが起こりますか。

答 主は栄光の中に大権をもって来られ<sup>1)</sup>、最後の審判を行い<sup>2)</sup>、救いの経綸を成就し<sup>3)</sup>、神の国を完成されます<sup>4)</sup>。

- 1) ダニ7:13~18、マタ16:27、同25:31。
- 2) マタ12:36~37、同25:31~46、ヨハ5:29、行17:31、ロマ2:5、Iコリ5:10、IIテサ1:6~10。
- 3) ルカ21:28、黙21:6~7。
- 4) マル9:1、ルカ22:18、Iコリ15:24、黙12:10、同21:1~4。

## 第8章 聖霊とその働き

それは真理の御霊である。この世はそれを見ようともせず、知ろうともしないので、それを受けることが出来ない。あなたがたはそれを知っている。なぜなら、それはあなたがたと共におり、また、あなたがたのうちにいるからである。

ヨハネ 14：17

もし、イエスを死人の中からよみがえらせたかたの御霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリスト・イエスを死人の中からよみがえらせたかたは、あなたがたの内に宿っている御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだをも生かして下さいであろう。ローマ 8：11

ただ神のあわれみによって、再生の洗いを受け、聖霊により新たにされて、わたしたちは救われたのである。この聖霊は、わたしたちの救主イエス・キリストをとおして、わたしたちの上に豊かに注がれた。これは、わたしたちが、キリストの恵みによって義とされ、永遠の生命を望むことによって、御国をつぐ者となるためである。テトス 3：5～7

1

問 私たちが、イエス・キリストにおいて成し遂げられた贖いにあずかるために、主はどのようになしたまいますか。

答 昇天して神の右に上げられ、今もなお生きて働きたもう<sup>1)</sup>キリストは、約束の聖霊において来た<sup>2)</sup>り、聖霊は永遠に私たちと共におられて、真理の御霊として働き、神の選びたもうた者をキリストへの信仰と交わりとに導き、もろもろの恵みにあずからせ、人々を慰め、終末の希望<sup>5)</sup>によって生きることを得させたもうのです。

ヨハ14:17、ロマ8:11、テト3:5~7。

- 1) ルカ24:5、同14:19、ロマ5:10、同8:34、ヘブ7:25。
- 2) ルカ24:49、ヨハ14:17~20、行1:4、同2:33、ガラ3:14、エペ1:13。
- 3) ヨハ14:16~19、Iコリ3:16、Iヨハ2:27。
- 4) ヨハ14:17、同14:26、Iヨハ5:6。
- 5) 行26:16~18、ロマ8:25、エペ1:13~14、テト1:11~13、Iペテ2:9、Iテサ1:10、IIペテ3:13。

58 ヨハ5:17 (削除)

## 2

問 それでは、聖霊は主の昇天後に初めて降ったのですか。

答 そうではありません。これは三位一体の第三の位格であり、永遠に主たる御霊<sup>1)</sup>であって、旧約においては、預言者はこれによって神の言を語り<sup>2)</sup>、新約においては、これによって福音が啓示され、分け与えられるのです。私たちはこの働きをなしたもう聖霊を、父と子と共に崇め礼拝すべきです<sup>3)</sup>。

- 1) IIコリ3:17、ヘブ9:14。
- 2) サム下23:2、イザ61:1~3、エゼ2:2~4、行1:16、IIペテ1:21。
- 3) ヨハ14:26、同15:26、同16:13~15、ロマ8:15~17、ガラ4:6。
- 4) マタ12:31~32、ヨハ4:21、行5:3、Iコリ12:3、IIコリ3:17~18。

## 3

問 そのような聖霊の働きを、私たちはどのようにして、受けるのですか。

答 まず聖霊の導き<sup>1)</sup>によって、イエス・キリストと出会い、召されて、福音の言葉を聞かせられ<sup>4)</sup>、信仰によって、その恵みとまこととを、わたしたちのうちに啓示されるのです<sup>5)</sup>。

Iコリ2:1~26、IIテサ2:13~15。

- 1) ヨハ16:13、ロマ8:14、ガラ5:18。

- 2) ヨハ1:41、同1:45、行9:4～5、同26:16、Iコリ6:17、エペ1:2。
- 3) ヨハ6:44、ロマ8:30、同9:21、Iテモ1:9。
- 4) マタ11:5、ロマ10:17、Iコリ2:2、コロ1:5、Iテモ1:15。
- 5) ヨハ1:14～17、ロマ5:21、エペ4:21。
- 6) ロマ1:17、ガラ1:16、エペ1:17。

4

問 イエス・キリストとの決定的な出会いはどこで起こりますか。

答 十字架においてです。

ルカ23:39～43、Iコリ1:23～24、ガラ3:1、同6:14。

5

問 その出会いをとおして、何が起こりますか。

答 イエスを救い主と告白する人格的な交わりが生まれます。すなわち、まことの悔い改め<sup>1)</sup>と信仰<sup>2)</sup>による告白的な交わりです。

ヨハ9:35～38、行2:36、Iコリ1:9、ヘブ4:14、Iヨハ1:3。

- 1) マル1:15、ルカ5:32、行17:30、同20:21、IIコリ7:10、IIテモ2:25。
- 2) ヨハ20:28～29、マル9:24、ヨハ1:49、同9:35～38、同11:25～27、ロマ10:8～9、ピリ2:11

58 ガラ2:16 (削除)

6

問 悔い改めとはまず何ですか。

答 それは、私たちが十字架のもとにおいて、深い罪の意識と責任感とを呼び起こされ<sup>1)</sup>、悔いし砕けた心をもって<sup>2)</sup>、自分が死にあたいする罪人であることを認め<sup>3)</sup>、神に帰ること、つまり、回心<sup>4)</sup>です。

- 1) 詩32:5、同51:3～4、サム下12:1～15、レビ5:17、ルカ5:8、ロマ7:7～24、Iテモ1:15。

- 2) 詩34:18、同51:17、イザ57:15、同66:2。
- 3) ルカ23:40、ロマ6:23、同7:24。
- 4) エゼ18:32、ルカ15:17～18、行26:20。

58 まことの悔改めとは

## 7

問 まことの信仰とは何ですか。

答 信仰は、第一には、イエス・キリストの恵みの御業と約束との確実な知識<sup>3)</sup>であって、御言と聖霊とによって啓示され、心に刻まれるものです。

第二には、その知識に基づいて、神の自由な恵みの配慮に、ここから、信賴<sup>5)</sup>することです。

第三には、神に対して、衷心の崇めと感謝<sup>7)</sup>とをもって応答し、告白<sup>8)</sup>することです。

ロマ4:3、ヘブ11:6。

- 1) ロマ3:21～26、エペ2:11～16。
- 2) ロマ4:13、ガラ3:22、ヘブ8:6、同9:15、同10:23、同11:13。
- 3) IIコリ2:14、同4:6、コロ2:2、Iペテ1:3。
- 4) ロマ10:17、IIコリ1:22、エペ1:3、同6:17、コロ1:5、Iペテ1:23～25。
- 5) イザ12:2、ロマ4:18～21、IIコリ1:9、Iペテ2:6。
- 6) ピリ2:11、IIテサ1:12、Iペテ3:15、黙4:11、同5:12～14。
- 7) Iコリ1:4、エペ5:20、コロ3:16～17、黙4:9。
- 8) ロマ10:9～10、ヘブ13:15。

## 8

問 信仰によって、私たちに、何が起こりますか。

答 恵みの選びを確信し、キリストにあつて義と認められ、罪の赦しを得、神の子とせられ、聖化されることでもあります。

ロマ11:5、同3:22、行2:38、同10:43、ロマ8:14、Iコリ6:11。



9

問 義と認められるとは、どういうことですか。

答 神が自由に与えたもう、キリストの十字架の義を受けることです。もっと厳密に言いますと、神のみまえに義と認められる価値のある義は、ただイエス・キリストの義だけですから、義と認められるというのは、キリストの義を信じ、かつ、それに徹底的に依り頼む<sup>1)</sup>信仰を、義と認められるということです。

ロマ3：24～26、同4：5、同4：25、同10：3～4、ガラ2：16、ピリ3：9、Iヨハ2：1～2。

1) エレ23：6、Iコリ1：30、ピリ3：9。

10

問 イエス・キリストの義に、どうしてそのような意義と力とがあるのですか。

答 キリストは、永遠の祭司として、御自分を私たちの義の保証とし、初穂としてささげられ<sup>1)</sup>、それによって、神と人との関係を新たにされた<sup>2)</sup>からです。

ヘブ5：7～10、同7：20～28。

1) 詩119：122、Iコリ15：20、IIコリ1：22。

2) ロマ5：1～2、IIコリ5：17～19、エペ2：13～18、テト3：4～7。

11

問 「義と認められること」と「罪を赦されること」とは、どう違いますか。

答 義認は義でないものを義と宣する神の主権的な行為<sup>1)</sup>であり、赦罪は神があわれみに基づいて、罪人を生命の交わり<sup>3)</sup>に召したもう行為です。

1) イザ45：8、同45：21～22、ロマ3：21～28、同4：5～8、同5：9、同8：30、エペ1：7。

58

- 2) マタ6:14～15、同18:35、マル2:9～10、ルカ23:34、エペ1:7、コロ2:13、Iヨハ1:9。
- 3) ヨハ17:21、Iコリ1:9、Iヨハ1:3。

58 父としての愛  
58 召されるあわれみの

12

問 神の子とせられるとは、どういうことですか。

答 イエス・キリストが、人間の義となってくださったことを信ずるものには神の子となる自由<sup>1)</sup>が与えられ、子とせられた者の霊<sup>2)</sup>がさずけられ、アバ<sup>3)</sup>父と呼んで、おそれなく神に近づく自由<sup>4)</sup>が与えられることです。

ロマ8:14～16、ガラ3:26、Iヨハ3:1。

- 1) ヨハ1:12。
- 2) ロマ8:15、IIコリ6:18、ガラ4:4～5、エペ1:5。
- 3) ガラ4:6、マル14:36。
- 4) エペ2:18、同3:12。

58 権

13

問 聖化とは何ですか。

答 神に選ばれ、義とせられ、罪を赦され、子とされた者にあらわれる聖霊<sup>1)</sup>の実です。それは聖霊によってキリストに接がれ、新たに生かさ<sup>2)</sup>れ、世から潔め分たれ<sup>3)</sup>、よき業に励み<sup>4)</sup>、世と戦いつつ<sup>5)</sup>、勝利の主と共に歩むこと<sup>6)</sup>です。<sup>7)</sup><sup>8)</sup>

Iコリ6:11、コロ3:9～10、Iテサ5:23～24。

- 1) ロマ7:21、ガラ5:22、エペ5:9。
- 2) ヨハ15:4～5、ロマ6:5、同11:17～20。
- 3) 詩30:3、エゼ37:5～6、ヨハ3:3、ロマ6:13、Iコリ15:22。
- 4) ヨハ17:19、エペ1:1、テト2:14。

- 5) ヨハ14:11、Iコリ15:58、エペ2:10、コロ1:10、IIテモ2:21、ヘブ10:24。  
 6) エペ6:10～20、Iテモ1:18、同6:12、IIテモ4:7、ヘブ12:4、ユダ3。  
 7) ヨハ16:33、黙6:2。  
 8) コロ2:6。

14

問 聖化は地上の生活において全うされ、救いの確かさとなることができますか。

答 いいえ、罪人である私たちは罪を赦され、いよいよ御旨に服従し、きよめの生活を日毎に深められなければならないのですが、罪のない状態にたちどころに到達するとしてたり、きよめが救いの確かさの保証となると考えてはなりません。<sup>1)</sup>

ロマ7:23～23、ピリ3:12、ヤコ3:2、Iヨハ1:8～10。

- 1) エペ2:8～9。

15

問 神の御手の導きのうちにあるものが、神の恵みからおちることがありますか。

答 いいえ、神は恵みのもとにある者を、つねに教え<sup>1)</sup>、いましめ<sup>2)</sup>、導き<sup>3)</sup>、慰め<sup>4)</sup>、永遠の生命を嗣ぐものとして、終わりまで保持<sup>5)</sup>して、決して、はなちたまいません。

ヨハ10:28、Iヨハ2:27～28。

- 1) イザ2:3、ヨハ14:26、エペ4:21、テト2:13。  
 2) 詩118:18、Iコリ11:32、IIコリ6:9、ヘブ12:5～10。  
 3) 出13:21～22、詩48:14、イザ58:11、ヨハ16:13、Iコリ10:13。  
 4) 詩23:4、エレ31:13、ロマ15:5、IIコリ1:3～5、IIコリ7:6。  
 5) ヨハ14:16、同17:11、ロマ8:33、エペ4:30、ピリ2:13、IIテサ3:3、IIテモ2:18～19、ヘブ9:12～15。

16

問 そのような大いなる恵みの根拠は、どこにありますか。

答 それは、神の永遠のさだめに基づいて、イエス・キリストにあって、私たちが恵みのうちに選ばれているということにあります。そして、このことは聖霊によって私たちの心に証印<sup>1)</sup>されております。

ロマ8：28、同9：11～16、エペ1：3～5、Ⅱテサ2：13～14。

1) エペ1：13～14。

17

問 選ばれた者に、終わりの日に与えられる祝福は何ですか。

答 その日には、イエス・キリストが御自分の高举において、すでに証しされたような、栄光の体を与えられ、永遠に神と共におらしめられるのです。

ロマ8：29～30、Ⅰコリ15：4、Ⅱコリ3：18、ピリ3：21、コロ3：4、Ⅰテサ4：17、Ⅰヨハ3：2、黙21：3～4。

18

問 終わりの日の栄光は、聖霊の働きを受けるあらたな生活が、頂点に到達したことですか。

答 いいえ、そうではありません。しかし、**選びの確信、信仰による義認、聖化**は終わりの日の証印であり、不可欠なものです。

ロマ8：16、Ⅰコリ15：52、エペ1：13～14、同4：30、コロ3：1～10。

58 選びや義認や

19

問 このような聖霊の働きによる新しい生活は、どんなものですか。

答 教会に召され、神の業にあずからせられ、全生活が、神の恵みに感謝

<sup>2)</sup>し、神に栄光を帰する<sup>3)</sup>ようになることです。

1) エペ4:12、コロ1:24~26。

2) コロ1:12、同2:7、Iテサ5:18。

3) ロマ4:20、Iコリ6:20、同10:31、IIコリ1:20、ピリ2:10~11、黙  
19:7。

## 第9章 教会

あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。マタイ 16：18

この教会はキリストの体であって、すべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかならない。エペソ 1：23

神の家というのは、生ける神の教会のことであって、それは真理の柱、真理の基礎なのである。I テモテ 3：15

1

問 信仰生活を全うするためには、どうすればよいのですか。

答 信仰をもつことは、キリストに合せられ、その肢体とされることですから、イエス・キリストの体である教会に属し、そこで養われなければなりません。それゆえ、単独で、あるいは同好者の間で、自由に教理を研究し、聖書を読み、祈りをしていればよいというような考えは間違いです。

ヨハ 15：5、ロマ 12：5、I コリ 6：15～17、同 12：27、エペ 1：23、同 5：22～32。

2

問 教会は、イエス・キリストによってつくられたのですか。

答 そうです。イエス・キリストの教会は、旧約の時代には、神に選ばれたイスラエル<sup>1)</sup>として存在しておりましたが、主の十字架の贖いと聖霊の降臨<sup>2)</sup>によって、新たに告白的信仰の共同体として、建てられたのです。

- 1) 出19:5～6、申14:2、詩114:2、イザ63:18、エゼ37:26～28、行7:38、ロマ9:4、ヘブ8:10。
- 2) 行2:1～47。
- 3) マタ16:15～19、ロマ10:9、Iコリ3:11、エペ2:19～22、Iヨハ4:2、同4:14～15。

58 主の歴史的な啓示の以前

3

問 それでは、イエス・キリストと教会との関係は、どうなりますか。

答 キリストは教会のかしら<sup>1)</sup>、教会はキリストの体<sup>2)</sup>であり、主の血をもって贖われた、恵みの契約の共同体<sup>3)</sup>、また、聖徒の交わり<sup>4)</sup>であります。

- 1) エペ1:22、コロ1:18。
- 2) Iコリ12:27、エペ1:23、コロ1:24。
- 3) 行20:28、Iコリ10:16～17、ヘブ10:19～25、同13:20、黙1:5～6。
- 4) 行2:42、同4:32、ロマ12:10、同12:16、Iコリ1:9、Iテサ4:18、ヘブ10:24、Iヨハ1:3。

4

問 教会には、どれだけの範囲のものが加えられるのですか。

答 教会には、世のはじめから終わりまで、イエス・キリストの恵みの選びの中にある、すべての聖徒が召し集められております。

創26:4、Iコリ1:8～9、同2:26、同12:12～13、エペ1:10、ヘブ12:23。

5

問 それでは、教会は地上の教会だけではないのですか。

答 そうです。教会は天にある聖徒と地にある聖徒の総体であり、普遍的な、永遠にわたって存在する共同体であって、これを「聖なる公同の教会」と

いいます。この公同の教会は、このように、見えざる教会<sup>1)</sup>として存在するとともに、また見える教会<sup>2)</sup>として、地上に存在するのです。

1) エペ1:10～11、同3:15、ヘブ12:23、黙11:19、同15:5、同19:1～8。

2) ロマ15:9～12、Iコリ1:2、同12:12～13、黙7:9。

## 6

問 教会がイエス・キリストの体であるとは、どういう意味ですか。

答 それは、ちょうど、頭と肢体とのように、イエス・キリストと教会との間には、有機的な、生命的な関係のあることを示しております。

ヨハ15:5、エペ1:22～23、コロ1:18、Iコリ12:27。

## 7

問 その点をもう少し詳しく教えてください。

答 肉体をとって私たちのうちに宿られた神の言なるキリストが、この教会の時には、聖霊<sup>1)</sup>において、教会に現臨しておられるのです。それゆえ、教会はすべてのものを、すべてのもののうちに満たしているかたが、満ちみちているものに、ほかなりません<sup>2)</sup>。

マタ18:20、同28:20、行18:10。

1) ヨハ14:16～17、Iコリ10:16。

2) エペ1:23。

## 8

問 イエス・キリストが、聖霊<sup>1)</sup>において教会に現臨しておられるというのは、どういうことですか。

答 それは、主が聖霊<sup>1)</sup>によって、御言の説教<sup>1)</sup>と聖礼典<sup>2)</sup>において、現臨しておられることです。



- 1) 申 30:14、イザ 59:21、ヨハ 5:38、エペ 6:17、ヘブ 4:2、Iペテ 1:23、Iヨハ 2:14。
- 2) ヨハ 6:56、ロマ 6:3~4、Iコリ 10:4、同 10:16、同 11:23~29、エペ 5:26。

9

問 神が、イエス・キリストの体なる教会を、見えるかたちで地上におかれる意図は何ですか。

答 それは、信ずるものを、聖霊の力の中におき、恵みの経綸にあずからせるために、イエス・キリストの交わり<sup>1)</sup>に入れ、養い、訓練して、終わりまで保持し、かつ、教会をして、罪とたたかわせ<sup>2)</sup>、キリストの患難にあずからせ<sup>3)</sup>、執り成しのつとめ<sup>4)</sup>に奉仕させるためです。

- 1) エペ 2:6、Iテモ 1:9~11、黙 1:9。
- 2) Iコリ 1:9、同 10:16、Iヨハ 1:3。
- 3) マタ 10:16、ヨハ 16:33、行 14:22、エペ 6:10~20、ピリ 1:27、Iテモ 6:12。
- 4) ロマ 5:3、ピリ 3:10、コロ 1:24、Iペテ 4:13。
- 5) ロマ 15:16、Iテモ 2:1、Iペテ 2:5、黙 5:8。

10

問 それでは、人間の側からは、教会はどうあるべきでしょうか。

答 教会は恵みにあずかったものが、まことの礼拝をなし<sup>1)</sup>、また、聖徒の交わりをなし、信仰と希望と愛とをもって世を過ごし、感謝をもって御業をたたえ、栄光を神に帰する告白の共同体でなければなりません。しかし、地上の教会は試練にさらされ、誤謬に陥る危険の中にあるものですから、つねに御言によって審かれ<sup>2)</sup>、改革されてゆく教会<sup>3)</sup>でなければなりません。

- 1) 詩 45:11、同 95:6、ヨハ 4:21~24、ロマ 12:1~2、ピリ 3:3。
- 2) Iコリ 13:1~13、ガラ 5:5~6。
- 3) 詩 95:10、イザ 3:12、ロマ 9:32、Iコリ 5:1、ガラ 6:1、Iペテ 2:8、黙 2:

## 1、3:12。

- 4) 詩119:149、ヨハ12:48、ヘブ4:12、黙19:11～13。  
 5) 詩119:25、同119:65～72、コロ3:16、Iテサ2:13、Iテモ4:6。

## 11

問 教会に所属するものが、<sup>1)</sup>聖徒と呼ばれているのは、どういう意味ですか。

答 完全なきよさに達した者というわけではありません。聖徒は十字架の贖いによって罪を赦され、<sup>2)</sup>聖霊によって世から分かれたれ、あらためて世につかわされ、<sup>3)</sup>御国の嗣業をのぞみつつ、<sup>4)</sup>忍耐をもつて<sup>5)</sup>信仰の馳場を走る<sup>6)</sup>ものです。

- 1) ロマ1:7、Iコリ1:2、エペ1:18。  
 2) ヨハ17:14～17、ヘブ10:10。  
 3) マタ10:16、ヨハ20:21。  
 4) エペ1:17～19、コロ1:5、同3:24、テト3:7、Iペテ1:3～4。  
 5) ロマ8:25、Iテサ1:3、ヘブ10:36、ヤコ1:3～4、黙13:10。  
 6) Iコリ9:24、ピリ3:13～14、ヘブ12:1。

## 12

問 「聖徒の交わり」とは何ですか。

答 それは、聖霊によるイエス・キリストとの交わりであり、同時に、私たち相互の交わりです。主にある聖徒が、一人の主、一つの信仰、一つの希望を共に告白し、一つのめあてに向かって共に歩むことによって、兄弟の<sup>1)</sup>愛に結ばれ、イエス・キリストにあって、共に建て合わされ、一つの体と<sup>2)</sup>されることです。

- 1) Iテサ4:9～10、Iヨハ2:10。  
 2) Iコリ10:16～17、同12:12～27、エペ2:20～22、同4:1～16。

13

問 聖徒が御委託の使命を果たすために、教会に与えられたつとめは何ですか。

答 御言の説教<sup>1)</sup>と、聖礼典の執行<sup>2)</sup>とです。

1) マタ24:14、マル16:15、ロマ10:17、Iコリ1:21、テト1:3。

2) マタ26:26～29、同28:19、Iコリ11:23～24。

14

問 教会と神の国との関係を、どう見るべきですか。

答 神の国は神の支配です。それは、聖霊によるイエス・キリストとの交わりにおいて、すでに与えられている生命<sup>1)</sup>の中に現在し、また同時に、主の再臨<sup>2)</sup>において完成される<sup>3)</sup>ものです。教会は選ばれた者の中に実現された神の支配ですから、神の国は教会に現在し、同時に、教会は神の国の型であり、また約束です。これに所属するものは、つねに主の再び来たりたもう日のために、備えし<sup>4)</sup>つつ、待ち望むのです。

詩145:13、ダニ4:3、Iコリ4:20。

1) ヨハ3:36、ロマ8:10～11、IIコリ13:13、Iヨハ1:3。

2) マタ12:28、ルカ17:21。

3) イザ60:1～22、マル9:1、Iコリ15:24、黙21:1～4、同12:7～10。

4) マタ24:24、同25:13、ルカ12:40、Iペテ4:7、同4:12～13。

15

問 教会について、注意すべき、誤った考えがありますか。

答 あります。それは、地上にはイエス・キリストの真の教会は存在しないと主張し、また必要がないとする考えです。この考えの根本的な誤りは、教会を単に人間の創り出した制度のもとにある団体として考えていて、教会がキリストの体であり、同時にキリストによって建てられたものであることを理解しないことです。

次には、制度としての教会を、神の国およびイエス・キリストと同一視して、主の位置を犯す考えです。教会は、イエス・キリストの体ではありますが、同時に、信徒の群れですから、つねに主の御言に聴<sup>1)</sup>従するものでなければなりません。

マタ 16:18、行 20:28、エペ 1:23、Iテモ 3:15。

1) エレ 7:23、同 42:6、ヨハ 10:3~4、ロマ 1:5。

16

問 それでは、教会は神が恵みの経綸をなされるために、定めたもうた唯一の道と考えてよいのですか。

答 そのとおりです。教会の外には救いはありません。

ヨハ 10:7~18、同 14:6、Iコリ 3:10~11。

## 第10章 聖礼典

それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らに、バプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいの事を守るように教えよ。マタイ 28：19～20

またパンを取り、感謝してこれをさき、弟子たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えるわたしのからだである。わたしを記念するため、このように行いなさい」。食事ののち、杯も同じようにして言われた、「この杯はあなたがたのために流すわたしの血で立てられる新しい契約である」。

ルカ 22：19～20

1

問 御言の説教と聖礼典の執行とは、違った意味をもっているのですか。

答 いいえ、そうではありません。いずれもイエス・キリストの救いの事実の証し<sup>1)</sup>です。

1) Iコリ2：1～2、同2：26、Iテモ2：6～7、Iヨハ4：14、同5：6～12。

2

問 しかし、この二つのつとめが与えられているといたしますと、教会は、あるものには御言の説教によって、また、あるものには聖礼典の執行によって、その目的を果たしているのですか。

答 そうではありません。その根本は神の言にあるのですから、聖礼典は神の言の説教とともに執行されなければなりません。

マタ 28 : 19 ~ 20、行 2 : 40 ~ 42、ロマ 10 : 17、I コリ 10 : 15 ~ 17、コロ 3 : 16、テト 1 : 3。

58 ガラ 3 : 2 (削除)

## 3

問 そうしますと、聖礼典の儀式的要素そのものには、効果を生み出すわけではありませんのですか。

答 ありません。御言の説教によって信仰が起こされ、聖礼典はこれに確証を与えます。その確証の力は、聖霊によって現臨<sup>1)</sup>されるキリストにあります。

マル 16 : 16、行 8 : 37、同 16 : 31 ~ 34、テト 3 : 5 ~ 6。

1) マタ 3 : 16、マル 1 : 8、行 10 : 44 ~ 48、同 11 : 5 ~ 16、I コリ 12 : 13。

58 御言とともに信じて受ける聖礼典だけが、聖霊の力をもって働くのです

## 4

問 それでは、御言の説教と聖礼典とは、たがいに相補うものですか。

答 人間は、罪によって弱くなっており、心暗くなっているものですから、こういう私たちに、福音の事実と約束とをいっそう確かにするために、神はあわれみをもって、これらの二つをお与えくださったのです。

1) ヨハ 6 : 47 ~ 58、I コリ 10 : 16 ~ 17、ガラ 3 : 26 ~ 27、コロ 2 : 12 ~ 14、I ペテ 1 : 22 ~ 23。

## 5

問 聖礼典とは何ですか。

答 それは、主の救いの事業と約束とを封印する、目に見えるしるしであつて、イエス・キリストによって制定<sup>2)</sup>されたものです。

1) ルカ 22 : 19 ~ 20、行 2 : 41、同 8 : 36 ~ 38、ロマ 4 : 11。

2) マタ 28 : 19 ~ 20、I コリ 11 : 23 ~ 25。

58 あかし

6

問 私たちが聖礼典にあずかることによって、特に与えられる恵みと祝福とは何ですか。

答 イエス・キリストに接が<sup>1)</sup>れ、その恵みの契約を心に刻ま<sup>2)</sup>れ、御霊の賜う一致を与えられ<sup>3)</sup>、教会の生命を更新する力を与えられることです。

テト 3 : 4 ~ 8。

- 1) ヨハ 15 : 5、ロマ 6 : 5、同 11 : 17、同 12 : 5、I コリ 12 : 27、エペ 5 : 30。
- 2) 創 17 : 7 ~ 14、エレ 31 : 33、II コリ 3 : 3、ヘブ 10 : 16。
- 3) エペ 4 : 3、ピリ 2 : 1 ~ 2。

7

問 聖礼典は、いくつありますか。

答 洗礼<sup>1)</sup>と聖餐<sup>2)</sup>との二つです。キリストは、ただこの二つを制定されたのですから、これ以外のものを聖礼典とよぶことは間違いです。

I ヨハ 5 : 6 ~ 8。

- 1) マタ 3 : 15、同 28 : 19 ~ 20、マル 16 : 16。
- 2) I コリ 11 : 23 ~ 29。

8

問 洗礼とは何ですか。

答 父と子と聖霊の御名による水の洗いです。あたかも、水が肉体の汚れを洗うように<sup>1)</sup>、洗礼は神が十字架の血によって罪人を赦し<sup>2)</sup>、聖霊によって潔めわかち<sup>3)</sup>、恵みの契約に入れ、キリストの肢となさせたもう救いの刻印<sup>4)</sup>です。そして、ただ一回の行為であって繰り返えされません。

- 1) テト3:5～6、Iペテ3:21。
- 2) エレ31:34、マタ9:6、マル1:4、行5:31、同13:38、エペ4:32、Iペテ1:18～19。
- 3) ロマ15:16、IIテサ2:13、Iペテ1:2。
- 4) エペ1:13、同4:30、IIテモ2:19、黙7:3。

58 挿入

58 によって全うされるものです

58 3) エペ2:9～10 (削除)

## 9

問 洗礼を受けるにはどういうことが必要ですか。

答 洗礼を受けるものは、**聖徒の交わりの中に招かれ<sup>1)</sup>、キリストの死と復活とに合せられる<sup>2)</sup>のですから罪を悔い改め<sup>3)</sup>、赦罪の恵みにすべてを委ね<sup>4)</sup>、その信仰を、神と教会との前に、公に告白しなければなりません<sup>5)</sup>。**

- 1) 行2:44～47、同4:32、Iコリ1:9～10、エペ5:19～21、Iヨハ1:3。
- 2) ロマ6:5、ガラ3:27、エペ5:30～32。
- 3) マタ4:17、ルカ15:11～24、同24:47。
- 4) ルカ3:3、ヨハ8:1～11、コロ1:13～14。
- 5) マタ10:32、ルカ12:8、ロマ10:10、Iテモ6:12、ヘブ3:1、同4:14、同10:23。

58 キリストの死と復活に合わせられ、聖徒の交わりの中に招かれ

58 1) ロマ12:10、3) 使2:38、同13:24、4) 使2:38 (削除)

## 10

問 それでは、まだ信仰の意識が明らかでない小児に洗礼をさずけることには、どういう意味がありますか。

答 教会が小児に洗礼をさずけるのは、一切に先行する神の恵みの**選びによるものです**。選びの民であるイスラエルの子らに恵みの契約のしるしである割礼をほどこすことは神の御旨でした。そのように、教会の親たちの信仰によって、その子らに救いの印を刻むことは、神の喜びたもうところです。



創12:1～3、出20:2～6、申1:39、同6:1～9、マル10:13～16、ルカ1:  
14～15、同2:40、ロマ9:10～13。

1) 創17:7～13、行2:39、同7:8、ロマ4:11。

58 を信ずるからです

11

問 小児洗礼を受けたものは、聖餐にあずかることができますか。

答 それはできません。神の恵みは、人間の側から信仰による応答がささげられることとその恵みをわきまえをもって受けとることを求めますから、小児が陪餐者となるためには、自分で神の選びを確認し、そして、神と教会の前に信仰の告白を公にしなければなりません。

ロマ10:9～10、Iテサ1:4、IIペテ1:10。

1) イザ43:12、行8:12～13、ロマ10:17、Iヨハ5:10。

58 によって真に人間のものになるのですから

12

問 聖餐とは何ですか。

答 聖餐は、パンと葡萄酒とをもってする、イエス・キリストの死の記念であって、新しい契約のしるしです。パンはさかれた肉、葡萄酒は流された血を示します。これは過越の食事による古い契約の成就であって、主が最後の晩餐のときに制定されたものです。

マタ26:26～29、マル14:22～25、ルカ22:7～23、Iコリ11:23～29。

1) 出12、申16:1～8、ルカ22:7～16、Iコリ5:7、ヘブ11:28。

13

問 記念と言いますと、それは、ただ過ぎ去ったことを想起するということですか。

答 それだけではありません。イエス・キリストは聖霊おいて、信仰をもってこれにあずかる群れに現臨<sup>1)</sup>しておられます。私たちはその肉を食し、主の血を飲むことによって、教会のかしらたる主と一体とせられ、その生命の交わりが、さらに新たに、豊かにされるのです。

ヨハ6：53～56、同10：10、同15：1～6、ロマ8：11、Iコリ12：12～13、エペ3：16～19、同5：30～32。

1) ヨハ14：23、Iコリ10：16、Iヨハ3：24。

14

問 どうして、洗礼は一回だけであって、聖餐は回を重ねて行われるのですか。

答 洗礼は、イエス・キリストの交わりに入れることであり、聖餐は、与えられたその交わりが、つねに恵みの中につづけられ、永遠の生命が保証され、養われ育てられてゆくのに用いる見えるしるしであるからです。

Iコリ11：23～26、テト3：5

58 招かれる

58 挿入

58 ことを示す

15

問 聖餐はいつまでつづくのですか。

答 聖餐は、死にてよみがえり、神の右に座しておられる主が、栄光のうちに再び来たりたもう日に至るまで、行うのです。それゆえ、聖餐は、私たちがイエス・キリストの死の想起と終わりの日の待望とに生きる聖礼典です。

Iコリ11：28。

16

問 聖餐にあずかる資格は何ですか。

答 信仰を告白して、洗礼を受けたものでなければなりません。また、悔い改めと改善の希望をもった、よき信仰と生活を保っているものでなければなりません。<sup>1)</sup>そして、ふさわしくないことが明らかな人は除外されます。<sup>2)</sup>

- 1) I コリ 11 : 27 ~ 29、II コリ 13 : 5、ピリ 2 : 15 ~ 18、II テサ 1 : 11 ~ 12、II テモ 1 : 13 ~ 14。
- 2) マタ 16 : 18 ~ 19、同 18 : 15 ~ 20。

58 そればかりでなく

58 挿入

17

問 聖礼典は誰によって執行されますか。

答 聖礼典は神の言による教会の行為ですから、按手をもって任職された、御言の説教にたずさわる教師が司式し、聖霊の導きのもとに正しく執行されなければなりません。こうして、私たちはこれを委託したもう主に感謝と讃美とをささげるのです。

I コリ 10 : 16。

## 第二部 生活篇

### 第11章 教会生活と日本キリスト教会

ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。ペリピ 1:27

わたしは、あなたの所にすぐ行きたいと望みながら、この手紙を書いている。万が一わたしが遅れる場合には、神の家でいかに生活すべきかを、あなたに知ってもらいたいからである。Iテモテ 3:14～15

1

問 前篇で私たちの信ずることは明らかにされたと思いますが、これを受け入れさえすればキリスト者になれるのでしょうか。

答 いいえ、キリスト者は教理を受け入れるだけでなく、**その教理に従って**キリストにある生活、すなわち、神への奉仕<sup>1)</sup>と倫理<sup>2)</sup>と祈り<sup>3)</sup>とが必要です。

エペ 5:15～21、ペリ 1:27、コロ 3:12～17。

- 1) 申 10:12～13、行 20:19、ロマ 15:16～17、Iテサ 1:9、ヘブ 9:14。
- 2) マタ 5～7章、ロマ 12:9～21、Iコリ 13:1～7、ガラ 5:13～26、エペ 5:15～21。
- 3) マタ 6:5～15、ロマ 8:26、エペ 6:18、ペリ 4:6～7、Iテサ 5:17、ヤコ 5:13～18、Iヨハ 5:14～15。

## 2

問 キリスト者はその生活においては、聖書に基づいて、個人として、その正しいと信ずるところを行えばよいのではないのでしょうか。

答 いいえ、信仰生活とは、キリストにあって生きることで、それはキリストの体の肢<sup>1)</sup>として生きる、教会生活にほかなりません。それゆえに、キリストは教会を建て、聖徒のつとめを行わせるために、御言の仕え人<sup>3)</sup>を各教会にお遣わしになりました。それは、私たちの信ずることも行うことも、いっさいが神<sup>4)</sup>の言に基づくためです。

- 1) ロマ12：5、Ⅱコリ5：17、エペ2：10、コロ3：1～11。
- 2) ヨハ15：1～6、ロマ12：4～5、Ⅰコリ12：12～27、エペ5：30。
- 3) 行6：1～4、ロマ10：14～15、Ⅰコリ4：1、エペ4：11～13、コロ1：25。
- 4) 行20：32、Ⅰテサ2：13、ヘブ4：2、Ⅰペテ1：23～25。

58 エペ1：3～14、コロ1：2

58 4) マル4：14 (削除)

## 3

問 教会生活においては、どういうことが肝要ですか。

答 洗礼を受け<sup>1)</sup>、また信仰の告白をなし<sup>2)</sup>、教会に所属して、責任ある教会生活<sup>3)</sup>をすることです。

- 1) マタ28：19、ヨハ3：5、行2：38、ロマ6：3～4、Ⅰペテ3：21。
- 2) マタ10：32～33、同16：15～16、ロマ10：9～10、ピリ2：11、Ⅰヨハ1：9、同4：2。
- 3) 行2：42、Ⅰテサ5：12～22、Ⅰテモ3：15。

58 3) Ⅰテモ4：11～12 (削除)

## 4

問 責任ある教会生活には、どんなことがふくまれていますか。

答 責任ある教会生活には、洗礼、入会の時の誓約<sup>④</sup>にあるように、

- 1、聖日礼拝を守り<sup>1)</sup>、聖餐にあずかり<sup>2)</sup>、また諸集会に出席すること<sup>3)</sup>
- 2、教会の交わりと一致とを重んじること<sup>4)</sup>
- 3、教会の伝道や、その他の業に奉仕すること<sup>5)</sup>
- 4、教会を維持し、その使命を果たすために献金すること<sup>6)</sup>
- 5、証しの生活をする<sup>7)</sup>
- 6、信仰の告白および憲法規則を重んじることなどです。

⑨ 「日本キリスト教会式文」洗礼式の誓約の項。

- 1) 出20：8～11、レビ19：30、イザ56：2～7。
- 2) マタ26：26～29、Iコリ11：23～29。
- 3) 行10：33、同11：26、同12：12、ヘブ10：25。
- 4) Iコリ1：10、エペ4：3、ピリ2：2。
- 5) マル16：15、ロマ1：14～16、Iコリ9：16、IIテモ4：2。
- 6) ネヘ10：37、Iコリ9：14、IIコリ9：7。
- 7) 行1：8、Iテサ1：8、IIテモ1：8、ヘブ11：2、ヤコ2：14～18。

## 5

問 なぜ、聖日礼拝をまもることが大切なのですか。

答 聖日礼拝は神が御自分の栄光のため、多くの人々の救いの道として設定されたのですから、御子の血によって贖われた者が、神に栄光を帰し礼拝することは、第一の義務です。私たちはこれを守ることによってのみ、神との正しい関係を維持し、信仰をいきいきと保ち、全うすることができます。

創2：3、ネヘ13：15～22、エレ17：21～27、行20：7。

## 6

問 聖日礼拝では、何が行われますか。

答 聖日礼拝は主の日毎に時を定めて行われるもので、主の命令により御言の説教と聖礼典が行われます。そこでは讃美<sup>1)</sup>、祈り<sup>2)</sup>、聖書の朗読<sup>3)</sup>、説教<sup>4)</sup>、聖礼典<sup>5)</sup>、献金<sup>6)</sup>、祝祷<sup>7)</sup>等があります。そのうち、聖書の朗読、説教、聖礼典、祝祷は神からのよびかけであり、讃美、祈り、献金は神の民の応答です。

神は御言と聖霊とにより礼拝のうちに現臨<sup>8)</sup>し、罪を告白せしめ<sup>9)</sup>、罪の赦しを宣言し、交わりを与え、会衆を統治<sup>10)</sup>し、訓練し、伝道を推進し、教会を建設したまいます。

- 1) 詩135：1、Iコリ14：26、エペ5：19。
- 2) 王下19：15、行6：4、Iテモ2：1。
- 3) 出24：7、ネへ8：18、ルカ4：16、行15：21。
- 4) ネへ8：8、ルカ4：20～21、同24：47、行9：20、テト1：9。
- 5) マタ28：19、Iコリ10：16、同11：23～29。
- 6) レビ27：30、ネへ10：32、Iコリ16：1～2。
- 7) 民6：24～25、IIコリ13：13。
- 8) 出3：12、王上8：57、マタ18：20。
- 9) レビ26：40、ヤコ5：16、Iヨハ1：9。
- 10) Iテサ5：12、ヘブ13：17。

#### 58 挿入

### 7

問 なぜ、聖餐をまもらなければなりませんか。

答 聖餐は、主イエスが私たちのために制定された恵みの手段ですから、主に対する忠誠と従順とのゆえに、また私たちを聖化し教会の一致と交わりとをもたらすものでありますから、守らなければなりません。陪餐者でなくては、教会の会議にあずかることはできません。

マタ26：26～29、マル14：22～25、ルカ22：14～20、ヨハ6：53～58、Iコリ10：14～22、同11：23～29。

### 8

問 教会の交わりと一致とを重んじるとは、どういうことですか。

答 私たちは、キリストの体なる教会に加えられたのですから、御言のうちに働く聖霊による一致<sup>1)</sup>をたまわり、聖徒の交わりにあずかり<sup>2)</sup>、すべてのことを聖霊の賜物である愛と謙遜<sup>3)</sup>とをもって行い、教会の秩序と清潔とを保

ち、教会の建設<sup>5)</sup>をめざすことです。

- 1) Iコリ12:13、エペ2:18、同4:16、ピリ4:2。
- 2) 行2:42、ピリ2:1、ヘブ10:24～25、Iヨハ1:3、同1:7。
- 3) ロマ12:9～13、Iコリ13:4、ガラ5:22～23、ピリ2:1～3、コロ3:12。
- 4) Iコリ1:10、同5:6～8、同14:40、IIテモ2:22～24、Iペテ1:15～16。
- 5) Iコリ14:4～5、Iテサ5:11。

58 聖なる

58 徳を建てる

## 9

問 教会の奉仕とは、どんなことですか。

答 私たちは神の召し<sup>1)</sup>を受けて、教会の肢<sup>2)</sup>とされたものですから、全生活が神への奉仕であるべきで、礼拝と諸集会<sup>3)</sup>に出席し、伝道<sup>4)</sup>をはじめ、教会の使命を果たすためのさまざまな業や、教会の建設の業に進んで奉仕すべきです。もし、長老<sup>6)</sup>、執事<sup>7)</sup>、日曜学校教師、そのほかのつとめに任じられた場合には、神からの召命としてこれを受け、忠実に奉仕すべきです。

- 1) マタ4:18～22、ピリ3:14、コロ3:15、Iテモ6:12、IIテモ1:9。
- 2) ヨハ15:5、ロマ12:5、Iコリ12:27、エペ5:30。
- 3) ルカ17:10、ロマ12:1～2、同12:6～8、同15:16～17、エペ4:21。
- 4) Iコリ9:16、IIテモ4:2。
- 5) 行6:1～6、IIコリ11:28、エペ5:26～27、コロ1:24、IIテモ2:3。
- 6) 行11:30、同15:2、同20:17、Iテモ5:17、Iペテ5:1～2。
- 7) 行6:3～6、ロマ16:1、ピリ1:1、Iテモ3:8～13。

## 10

問 教会の経済はどのように維持されますか。

答 教会は教会員の献金によって維持されてゆくべきものですから、教会員はおのおのの信仰に従ってささげるべきです。献金は神の恵みへの応答と



しての礼拝的行為であり、感謝献身のしるしですから、初穂をささげる精神でなすべきです。

出23：19、Ⅱコリ8：1～15、同9：6～15。

11

問 証しの生活とは、どういうことですか。

答 教会員が、つねにキリストの体の肢として、キリストの死にあずかり<sup>1)</sup>、復活の証人として生き<sup>2)</sup>、すべてのことを福音にふさわしく<sup>3)</sup>、信仰による愛<sup>4)</sup>をもって行い、この世にあって地の塩、世の光として、神の栄光をあらわし、祝福の実にあずかることです。

- 1) ロマ6：1～11、Ⅱコリ4：7～12、同5：14～15、ガラ2：19～20、ピリ3：10～11。
- 2) 行2：32、Ⅰコリ6：14。
- 3) ロマ1：16、Ⅰコリ9：23、エペ6：15、ピリ1：27～28、Ⅰテモ1：11。
- 4) ガラ5：6、エペ6：23、Ⅰテモ1：5、Ⅱテモ2：22、Ⅰペテ1：22。
- 5) マタ5：13～16、ロマ13：12、エペ5：8～9、コロ4：6、Ⅰテサ5：5。

58 挿入

12

問 信仰の告白と憲法規則とを重んじるのは、何のためですか。

答 私たちが神の導きにより、信仰の告白と憲法規則を定めたのは、神の国の秩序に従い、**1)** 共同の教会に属する教会としての課題を実現するためであるからです。

- 1) マタ16：18、エペ1：22～23、コロ1：18、同2：19、Ⅰテモ3：15、ヘブ12：23。

58 日本キリスト教会に所属して教会生活を営んでおるのは

58 共同教会の本旨を

## 13

問 日本キリスト教会は、どういう教会ですか。

答 日本キリスト教会は、聖なる公同の教会に属する一団の教会であって、その本旨を実現するために、改革主義の伝統に立ち、長老制<sup>1)</sup>をとる教会です。それは幾多の個々の教会から成立し、信仰の告白と憲法とを奉じ、規則に従って権能<sup>2)</sup>を行い、その存立の目的を成就しようとする告白教会です。

- 1) 行14:23、同15:22、同21:18、Iテモ4:14、テト1:5~6。  
2) マタ18:17~20、行16:4、Iコリ14:40、コロ2:5。

## 14

問 「信仰の告白」とは何ですか。

答 「信仰の告白」は、聖書に基づいて教会が聴き、教え、宣教公布すべき信仰の要綱であって、教会の宣教と生活と一致との規準となり、異端や背信と戦う規範となるべきものです。

マタ16:16、ピリ2:11、ヘブ3:1、同4:14、同10:23、Iヨハ1:9、4:2、4:15。

## 15

問 「信仰の告白」を告白するというのは、どういうことですか。

答 それは、神の主権と恵みとの前に自分を無にし、神にのみ栄光を帰し、「信仰の告白」のあらわすところのものに対して、「我信ず」と同意を宣言することです。それは、神と人との前に讃美、頌栄、罪の告白をささげ、言と行為とをもって、その信仰を証しすることです。

マタ10:32~33、マル9:24、ルカ5:8、ヨハ6:68~69、同20:28、ロマ6:17、同10:9~10。

16

問 告白教会とは、どういうものですか。

答 告白教会とは、信条教会と違って、歴史的信条をただ墨守するのではなく、教会も教会員一人ひとりも、一つの信仰の告白をその場にて、御言に立つ決断として告白し、宣教に、伝道に、個々人の生活に、これをいきいきと言い表してゆく教会のことを言います。

マタ 16：16、行 4：24、I コリ 1：2、黙 4：10～11、同 5：8～14。

17

問 憲法規則は何のためにあるのですか。また、それはどんな立場をとっているのですか。

答 憲法規則は、教会が見ゆる教会<sup>1)</sup>として、主の委託を果たすために、いかなる政治機構をもつべきか、どのように運営されてゆくべきか、を明示するために制定されたものです。日本キリスト教会の憲法・規則は、旧新約聖書の指示に従い、イスラエルの教会と初代教会とに根拠をもち、宗教改革、特に改革教会に伝統を汲む長老制の立場をとっています。

1) I コリ 1：2。

58 1) I テサ 1：1、黙 2：1 (削除)

18

問 長老制とは、どんな制度ですか。

答 長老制は、教師と長老とによって組織される会議<sup>1)</sup>によって教会の政治を行う立憲代議制です。

1) 行 15：4～6。

19

問 長老制のめざす教会は、どういう教会ですか。

答 それは、**真実な教会**として、**神の主権**を中心として、**万人祭司**の原理に立って、**神の言の権威と自由**とに基づいて形成され、**全体と個との有機的関係**によって支えられ、**統制と自由の緊張関係**の中に訓練される教会です。

マタ 18 : 17 ~ 20、行 15 : 22、同 21 : 18、ロマ 12 : 3 ~ 6、エペ 4 : 11 ~ 16。

1) 出 20 : 3、マタ 4 : 10、同 6 : 24、マル 10 : 18、同 14 : 36、ロマ 11 : 36。

2) ガラ 3 : 28、エペ 2 : 18、Iペテ 2 : 5、黙 1 : 6、同 5 : 10。

3) ヨハ 15 : 1 ~ 11、ロマ 12 : 4 ~ 8、Iコリ 12 : 12 ~ 30、エペ 2 : 21 ~ 22、同 4 : 16。

20

問 日本キリスト教会の政治と運営とは、どのようにして行われますか。

答 日本キリスト教会は、**小会、中会、大会の代議制**を取り、それぞれの権能を行います。個々の教会はその総会による**会議制度**をとっております。小会は**牧師と教会の総会**によって選出された長老とによって組織され、中会は**教師と小会から選出された長老**とによって組織され、大会は**各中会を構成する教師と長老**とによって組織され、**憲法・規則に従い**、それぞれの所管事項を管掌します。**こうした長老制の特色は中会に見られます**。また、**小会・中会・大会は戒規**を行い、**疑義、照会、上告の判定**をくださる教会の**法廷の性格**をも持っています。

1) マタ 16 : 19、同 18 : 15 ~ 18、Iコリ 5 : 1 ~ 13、Iテモ 1 : 20、同 5 : 20、テト 3 : 10。

58 こうした長老制の中心は中会におかれています

21

問 教会の制度には、ほかにどのような制度がありますか。また、それらと長老制はどう違いますか。

答 教会の制度には、長老制のほかに監督制と会衆制とがあります。長老制は監督制と違って、聖俗の区別と教職間の階級とがありません。したがって、御言の仕え人としての教職の権威が尊重されるとともに、教会政治の面においては、教職と長老との同格が認められます。また、会衆制と違って、個々の教会の権能を完結的なものとは考えず、段階的会議による政治を主張し、教会個人主義や衆愚政治に陥る弊害をのぞき、教職と長老とが協力して、純正な教理の擁護と治会の責任にあたるものです。

Iテモ1:3~4、IIテモ2:16~18、テト3:10、Iヨハ4:1~3、IIヨハ7。

22

問 日本キリスト教会には、このほかにどんな特色がありますか。

答 日本キリスト教会は、教理の厳正と積極的伝道と教会の独立自治を重んじ、単に、信仰上、精神上のことのみでなく、経済上の独立をも尊重する教会です。

1) マタ22:21、ヨハ18:36、Iコリ7:23、Iヨハ2:15~16。

2) ガラ5:1、ピリ4:11、Iテサ4:11~12、IIテサ3:8。

23

問 教会員として、全体の教会に対して、どのような態度をもつべきでしょうか。

答 私たちは教会員として、それぞれの教会において、また、世において忠実に奉仕しなければなりません。日本キリスト教会は一体の教会ですから、つねにこの教会の健全な形成のために祈り、その全体の働きのために、喜んで<sup>1)</sup>労苦すべきです。これらはすべて相まって神の栄光のために仕える一つの業です。

Iコリ12:12~27。

1) マタ20:26~27、ヨハ12:24、ロマ12:3~5、エペ4:16。

## 第12章 十戒

イスラエルよ、きょう、わたしがあなたがたの耳に語る定めと、おきてを聞き、これを学び、これを守って行え。申命記5：1

わたしが律法や預言者を廃するためにきた、と思っ**て**はならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。マタイ5：17

信仰のゆえに私たちは律法を無効にするのであるか。断じてそうではない。かえって、それによって律法を確立するのである。ロマ3：31

1

問 神は、私たちがどのように生きることを求めたまいますか。

答 創造主にして贖罪主なる神は、私たちが恵みに応えて悔い改め、感謝と敬愛と信頼とをもって、神の御旨に服従して、ただ神の栄光のために生きることを求めたまいます。そのために律法を与えたまいました。

申5：1、伝12：13、ミカ6：8、ロマ12：1。

1) イザ44：24。

2) 代上16：23～36、イザ43：7、43：21、Iコリ6：20、同10：31、黙14：7。

2

問 律法から解放されたキリスト者が、なお、律法に従わなければならないのは、どういうわけですか。キリスト者は聖霊によって歩むべきではありませんか。

答 それはもちろんです。聖霊に従って歩む私たちのうちにこそ、律法の要

求が全うされるのです。しかし、私たちはなお弱いものですから、律法によらなければ、自分が罪人であることを弁<sup>2)</sup>え、また正しい規準によって神に仕える道<sup>3)</sup>を知らず、さらに、神の求めたもう潔さ<sup>4)</sup>へ進むことができません。それゆえ、福音のもとにある私たちには、律法はキリスト<sup>5)</sup>の律法として与えられます。

マタ5：17。

- 1) ロマ8：4、ガラ5：16、同5：25。
- 2) 詩51：3～4、ロマ3：20、同5：13、同7：7。
- 3) 箴28：4、詩29：124、ロマ4：15。
- 4) ロマ6：19～22、Ⅱコリ7：1、エペ4：24、Ⅰテサ3：13、ヘブ12：14。
- 5) Ⅰコリ9：20～21、ガラ6：2。

### 3

問 キリストの律法とは、どういうものですか。

答 それは「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして主なる神を愛する」こと<sup>1)</sup>、また「自分を愛するように隣人を愛する」こと<sup>2)</sup>です。  
キリストがこのように十戒を要約されました。

ロマ13：8～10、Ⅰコリ13：13、ガラ5：13～14、Ⅰヨハ5：1～3。

- 1) 申6：5、マタ22：37、ルカ10：26～27、ヨハ14：15。
- 2) レビ19：18、マタ22：39、ヨハ15：12。

58 このことを更にくわしく具体的に説いたものが十戒です

### 4

問 十戒というのは、どういうものですか。

答 むかし、イスラエルの民が、モーセにひきいられて、エジプトの奴隷状態から脱出して、シナイ山において神から与えられた律法です。私たちが、キリストによって、罪の奴隷であった境遇から贖い出され、神に仕える身となったとき、この十戒を与えられます<sup>1)</sup>。これをもっていることは、神とイスラエルとの契約<sup>2)</sup>のしるしでしたが、私たちがこれに従うことによ

て、神の民である証しを立てることができます<sup>3)</sup>。したがって、これは道徳の教えとは違います。

出20：1～17、申4：13、同5：1～22、同10：1～5、ヨハ13：34。

- 1) ガラ5：13～14、エペ5：1、コロ3：1～10。
- 2) 出24：6～8、申5：2～3。
- 3) 申7：6～13、イザ43：10、ヨハ13：35。

58 ちょうどそれと同じく

58 1) ロマ13：8～10、黙14：3～5 (削除)

## 5

問 十戒の構成はどうなっていますか。

答 十の戒めからなっており、第一戒から第五戒までは、私たちの神に関する戒め<sup>1)</sup>、第六戒から第十戒までは、隣人に関する戒め<sup>2)</sup>です。

出31：18、申5：22。

- 1) 出20：1～2、申5：6～16、同10：12～13、マタ22：37～38。
- 2) 出20：13～17、申5：17～21、レビ19：18、マタ22：39、ロマ13：9。

## 6

問 第一戒は何といいますか。

答 「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地から導き出した者である。あなたはわたしのほかになにものをも神としてはならない」。

出20：2～3、申5：6～7。

## 7

問 前の部分において、神は何を私たちに示したまいましたか。

答 これは全体の序文ともなるものであって、「わたしはあなたの神」と、その御名を示し<sup>1)</sup>、その律法の權威の基礎を明らかにし、立法者は神御自身であること、私たちが罪の奴隷の状態から導き出した恵みの神であること<sup>2)</sup>



を、示したまいました。

- 1) 出3:13～15、同33:19。
- 2) 出3:12、同13:9～10、同24:12、同29:45～46、申8:1～20、詩19:7～11、行26:17～18、コロ1:13。

## 8

問 後の部分において、神は何を命じておられますか。

答 神の唯一<sup>1)</sup>性と、その絶対主権<sup>2)</sup>とを主張して、私たちが、この唯一の神の<sup>3)</sup>みを畏れ、崇め礼拝し、全き信頼<sup>4)</sup>をもって、仕えまつるべきことを命じたまいました。

- 1) 申6:4 (マル12:29)、ヨハ17:3、Iコリ8:4～6。
- 2) 詩93:1～2、同96:10、同99:1～2、イザ6:1～5、同14:24、黙19:6。
- 3) 出15:1～18、申5:29、詩22:23、ヨハ4:21～24、黙4:9～11。
- 4) イザ30:15、ロマ4:20～21、ヤコ1:5～6。

## 9

問 第一戒の違反には、どういうことがありますか。

答 神のみにふさわしい栄誉を他のものにささげることです。また、天然物や祖先や、遺骸等をおがむこと、易断、呪文、巫術そのほかの迷信行為<sup>1)</sup>も含まれます。

ロマ1:23～25、Iコリ10:14、ガラ4:8、ピリ3:19、コロ3:5、Iヨハ5:21。

- 1) レビ20:27、申4:15～19、同17:2～7、ヨブ31:24～28、詩58:5、イザ2:6、エレ14:14、エゼ8:3～18、ダニ2:2。

58 他に移す

58 1) 申15:23～24、同15:25～28 (削除)

## 10

問 第二戒は何といますか。

答 「あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また、地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものには父の罪を子に報いて三、四代に及ぼし、わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう」。

出20：4～6、申5：8～10、イザ40：18～20。

## 11

問 第二戒において、神は何を命じておられますか。

答 神の<sup>1)</sup>靈性、<sup>2)</sup>永遠性、<sup>3)</sup>超越性を主張し、私たちが見えるものによらず、信仰により、<sup>3)</sup>霊と真とをもって神を礼拝することを望んでおられます。つまり、この戒めは神の礼拝と、神との交わりの正しい方式を示すものです。

ヨハ4：23～24、ロマ12：1～2、ペリ3：3。

1) 詩90：1～4、イザ40：28、Iテモ1：17。

2) 詩145：3、イザ40：22、エレ23：23～24。

3) IIコリ5：7、ガラ2：20、エペ3：12。

## 12

問 「自分のために」とあるのは、どういうことですか。

答 それは、人間の便宜や利益のために、それに副う形にまで、神を引き下ろそうとすることです。偶像礼拝には必ず道徳的墮落がともなっていることを見ても、<sup>1)</sup>それが真の敬虔から発するものでないことは明らかです。

1) レビ26：1、申4：16～19、ロマ1：22～27、ペリ3：19、コロ3：5。

## 13

問 しかし、神を何かの形であらわした方が、礼拝で、精神を集中するためにも、教育的にも、よいではありませんか。

答 神のかたちはイエス・キリストによってこそ見られます<sup>1)</sup>。また、御言の  
説教のほかには、私たちに神を示すものはありません<sup>2)</sup>。

- 1) ヨハ1：18、同14：8～9、Ⅱコリ4：4、コロ1：15、ヘブ1：3。
- 2) Ⅱヨハ9。

58 挿入

14

問 なぜ、「ねたむ神」と言われるのですか。

答 神は私たちをご自身のものとして慈しみ、愛したもうからです。すなわち、  
私たちをこのように愛したもう生ける人格なる神は、私たちにも、ご自身  
に対して全人格的に応答することを求めたまいます<sup>1)</sup>。ゆえに私たちが神の  
愛を拒み<sup>こば</sup>、偶像に走ることは、神に対する裏切り行為であり、靈的姦淫に  
ほかならないからです<sup>2)</sup>。

- 1) 申6：12～15、ヨシ24：14～28、詩31：23、ヨハ21：15、ヤコ4：5。
- 2) エレ3：6～10、同3：20、エゼ23：30、ホセ3：1、同4：12～13、同4：  
17～18、同5：7。

58 独占的に

15

問 報いが当人だけでなく、子孫にまで及ぶのはどうしてでしょうか。

答 人間の罪に対する神の呪いは、罪を犯した当人一代にととまらず、数代  
を罰するという大きな判決であり<sup>1)</sup>、それにもまして、従順に対する神の祝福  
は、千代にも及ぶ豊かな約束であるからです<sup>2)</sup>。

- 1) ロマ5：13～22、イザ14：20～21、同65：7、エレ32：18。
- 2) 創22：15～18、出34：6～7、申7：9、ロマ11：28。

58 さらにまた、神の祝福はそれにもまして

58 もの

16

問 第三戒は何といいますか。

答 「あなたは、あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。主は、御名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう」。

出20：7、申5：11。

17

問 第三戒において、神は何を命じておられますか。

答 神の御名は神聖で犯すことのできないもの<sup>1)</sup>ですから、これを正しく用い、つねに畏れとうやうやしさと讚美とをもって、その御名を呼び<sup>2)</sup>、私たちの全身全霊をもって、御名の栄光のために仕えるべきことを命じておられます<sup>3)</sup>。

- 1) レビ19：1～2、詩83：18、同99：3、イザ57：15。
- 2) 詩69：30、ダニ2：20、マタ6：9、ヘブ13：15。
- 3) Iコリ6：20、同10：31、Iペテ4：21。

58 挿入

58 1) 詩25：14、2) 箴30：9 (削除)

18

問 第三戒の違反は何ですか。

答 御名の栄光を求めることなく、これを乱用することです。たとえば、偽りの誓い<sup>1)</sup>、まじないや呪いの言葉<sup>2)</sup>、自分の言動を裏付けるために、不敬虔に御名を利用すること<sup>4)</sup>です。

- 1) レビ19：12、マタ23：16～22、ヤコ5：12。
- 2) 出22：18、申18：9～14、サム上28：3。
- 3) レビ24：13、ロマ12：14。
- 4) マタ5：34～35。

19

問 この戒めに限って、なぜことさらに、守らないものは「罰しないでは置かないであろう」と付記されているのですか。

答 それは、神が御名の栄光を保持したもうことに、特に熱心であるからです。<sup>1)</sup> 神の名を汚し、神を侮り、<sup>2)</sup> 聖なるものを犯すことが、どのように恐ろしい罪であるかを知らねばならないからです。

出 34 : 14、レビ 18 : 21、同 18 : 25。

1) イザ 48 : 11、エレ 34 : 16～20。

2) 行 13 : 41、ガラ 6 : 7、ヘブ 10 : 29。

20

問 第四戒は何といますか。

答 「安息日を覚えて、これを聖とせよ。六日のあいだ働いてあなたのすべてのわぎをせよ。七日目はあなたの神、主の安息であるから、なんのわぎをもしてはならない。あなたも、あなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、また、あなたの門のうちにいる他国の人もそうである。主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は、安息日を祝福して聖とされた」。

出 20 : 8～11、申 5 : 12～15。

21

問 第四戒において、神は何を命じておられますか。

答 神が天地創造のわぎを終えて、七日目に休まれたこと<sup>1)</sup>から、神は人間にも、恵みとして安息日を与えたいました。それゆえ、私たちが安息日を覚え、この世の業務を停止し、ひたすら、神に仕えて、きよく過ごすことを命じておられます。

出 16 : 22～30、レビ 19 : 30、イザ 56 : 4～7、同 58 : 13～14、ルカ 4 : 16、同 23 : 56。

- 1) 創2:2~3。

22

問 「安息日を祝福して、聖とされた」とは、どういうことですか。

答 神がこの日を聖とされたので、私たちもこの日を聖とします。聖とするというのは、神が一週間のうち、一日を特に聖別して私たちに与えたまいましたから、ふだんの日とは区別し、まず教会に出席して、神の恵みの御言を聞き、礼拝をささげ、神との交わりと安息とをもつことです。これを、人間の要求に基づくこの世的な休息と娯楽の日と混同してはなりません。

レビ19:30、イザ58:13~14、エゼ20:12、ルカ13:10、行18:4、ヘブ4:9~11。

23

問 十戒には「七日目」とあるのに、私たちはどうして週の第一日の日曜日を安息日としているのですか。

答 天地創造以来の祝日としての安息日は七日目<sup>1)</sup>でしたが、主イエス・キリストの復活以後は、新たに、その復活の日、すなわち、週のはじめの日<sup>2)</sup>が、私たちの救いの完成を保証し、終わりの日を待ち望ませるものとして、主の日と定められたのです。

使20:7、黙1:10

- 1) 創2:3、ルカ23:56。  
2) マタ28:1。

58 古き安息日は廃棄されて

58 1) コロ2:16 (削除)

24

問 すでに、キリストのものとなっている私たちならば、むしろ主の日も休

まずに働くことが、御ころにかなうことではないでしょうか。

答 いいえ、そうではありません。神は「六日のあいだ働いてあなたのすべての業をせよ」と命じておられますから、私たちは六日の間は忠実に働かねばなりません<sup>1)</sup>。しかし、私たちの働きは御旨にかなっていると思っても、つねに過ちに陥ります。私たちは主の日には働きをやめて、御前に出て御言を聞き、新たにされて聖徒のつとめを果たさねばなりません<sup>2)</sup>。それとともに、神は私たちの肉体の弱さをあわれんで休息がとれるように、社会が秩序づけられることをよしとしましたまいます。したがって、私たちは自分が休むだけでなく、人にも解放を与えねばなりません<sup>3)</sup>。

- 1) Iテサ4:11～12、IIテサ3:10～12。
- 2) 詩73:17、同73:26、イザ40:30～31。
- 3) 出23:12、申5:12～15。

58 罪を告白し、みゆるしを得、新たにされて、業につかなければなりません

25

問 第五戒は何といいますか。

答 「あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」。

出20:12、申5:16。

26

問 この戒めは親子の関係に基づいて、孝行を教えているのですか。

答 いいえ、これは契約の民としての親子の関係について与えられたものですから、キリスト者は律法の完成者としての主イエス・キリストに対する信仰において、聞き従うべきです。

マタ5:17～18、エヘ6:1、コロ3:20。

58 この戒めは契約の民に与えられた親子の関係についての

27

問 それでは、第五戒において、神は何を命じておられますか。

答 私たちが、心からの尊敬をもって、父母に対して愛と感謝と従順とをささげることを命じておられます。

出12:17、申27:16、エペ6:1～3。

28

問 どういう理由に基づいてこのように命じておられますか。

答 神は父母を通じて私たちに生命を与え、養育し、御言を教え、神との交わりのうちにおきたまいます。それゆえ、神の代表としての父母を敬うことによって神を崇め、父母に対して謙遜従順であることによって、神に栄光を帰するように命じられました。このような従順は、御言を教えるつとめを担う者にも向けられるべきです。

1) 申4:10、同6:7、同8:5、同11:19～21、箴1:8～9、ヘブ13:17。

58 とも言うべき

58 挿入

29

問 神の言を教えず、または、信仰を妨げる父母は尊ばなくてもよいのでしょうか。

答 キリスト者にとっては、神に従うことが一切に優先することですから、もし神の命令と親の要求とが相反する場合には、もとより神に従わなければなりません<sup>1)</sup>。しかし、そうでない限り、私たちは、主にあって忍耐をもって両親を尊ばなければなりません。なによりも彼らが信仰に導かれるために祈らねばなりません<sup>2)</sup>。



- 1) マタ 10 : 37、ルカ 14 : 26、行 4 : 19、同 5 : 29、ガラ 1 : 10。
- 2) エペ 6 : 1。

58 どこまでも両親が

30

問 「これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」とは、どういう意味ですか。

答 これは、私たちが、罪の奴隷の状態から解放されて、信仰による自由の場所におかれ、神の約束したもうた、末ながくつづく大いなる祝福の確かさを示して、主にあって父母を敬うことをすすめているのです。

詩 128 : 1 ~ 6、エペ 6 : 1 ~ 3。

58 詩 133、エペ 2 : 19 ~ 22 (削除)

31

問 第六戒は何といいますか。

答 「あなたは殺してはならない」。

出 20 : 13、申 5 : 17、民 35 : 30 ~ 31、マタ 5 : 21 ~ 26。

32

問 第六戒において、神は何を命じておられますか。

答 この戒めにおいて、神は私たちに、隣人の生命をそこなうことなく、かえってこれを愛し、かつ、尊ばなければならないことを示しておられます。

I コリ 3 : 16 ~ 17、ガラ 5 : 13 ~ 15、ヤコ 3 : 9 ~ 10。

33

問 この戒めは、人間以外の生きものを殺すことを禁じているのですか。

答 そうではありません。これは、もっぱら人間について言われているのです。ただ、人間はすべての生きものを治める立場におかれておりますから**必要以上に殺すことは慎まなければなりません。**

創1：26、出23：19、申12：20～23、詩8：4～8、ヘブ2：8。

58 仏教でいう殺生戒とは違います

58 レビ20：26 (削除)

34

問 人間の生命が、とくに貴いのは、なぜでしょう。

答 神は人間を、御自分のかたちにかたどって造り<sup>1)</sup>、その救いのために御子を賜う程に愛しておられるのですから、私たちは人間の生命を貴ばなければなりません。それゆえ、殺人も自殺も、人間の生と死とを支配したもう神の主権を犯すことです。

1) 創1：26～27、同9：6～7。

2) 申7：12～15、ネヘ1：4～11、ホセ14：4～7、ヨハ3：16。

35

問 人間を「殺す」ということは、その肉体の生命を断つことだけをいうのでしょうか。

答 そうではありません。主イエス・キリストは隣人に対していただく怒り、憎しみ、嫉妬、復讐心といった、すべての悪意は、**一種の内的殺人**であって、暴力行為等とともに、明らかに第六戒を犯すものと教えたまいしました。

レビ19：17～28、マタ5：21～22、エペ4：31、ヤコ3：8～9、Iヨハ3：15。

58 ことごとく

36

問 それでは、私たちは、ただそれらの行為を犯したり、そういう思いを抱

いたりしなければそれでよいのですか。

答 いいえ。私たちは隣人に害を加えないばかりか、友に対しても、敵に対しても積極的に彼らの生命と良心と体とを守ることにつとめなければなりません。

マタ5：43～44、ルカ6：27～36、同10：25～37、ロマ12：10、同12：20～21、コロ3：12～14。

58 を愛し、その霊と心と

37

問 防衛のためや、職務上、憎しみのないままに、やむなく人を殺さねばならない場合は許されるのでしょうか。

答 私たちは、イエス・キリストの十字架によって、自分の一切の罪が赦されることを確信しています。しかし、人が人を殺すような不合理は、なしうる限り、解消するようにつとめることが当然です<sup>1)</sup>。また、私たちはこの世から命じられ、許されていることであっても、これを良心によって拒否する自由をもっています<sup>2)</sup>。

- 1) サム上8：11～12、イザ2：1～4。
- 2) ロマ13：4、Iコリ10：23。
- 3) Iコリ10：29。

38

問 第七戒は何といますか。

答 「あなたは姦淫してはならない」。

出20：14、申5：18。

39

問 第七戒において、神は何を命じておられますか。

答 性の純潔を保ち、結婚生活においては貞潔を守ることを命じておられます。

マタ5:8、マル10:11～12、ロマ2:22、Iコリ6:15～18、ヘブ13:4。

#### 58 個人の性道徳

40

問 性の純潔について、もっと詳しく説明してください。

答 私たちは神の恵みによって贖われ、神の宮<sup>1)</sup>キリストの肢<sup>2)</sup>とされたものですから、このような存在であることをわきまえず、欲望の奴隷となり、相互の尊厳をきずつけるようなことをしてはなりません。肉体の純潔は心の純潔があつてこそ保ち得るものですから、主イエス・キリストも内心の情欲は姦淫と同罪とみておられます<sup>3)</sup>。情欲を刺戟するようなすべてのものをしりぞけ、性的に無秩序な行為をしりぞけ、隣人、特に異性の貞操を重んじ、たがいに心身の純潔を保つものでなくては、神の国を嗣ぐものとされません。

- 1) Iコリ3:16、同6:19。
- 2) ロマ12:5、Iコリ6:15。
- 3) マタ5:27～32。

#### 58 個人の性道徳

41

問 結婚生活において、なぜ貞潔でなければならないのですか。

答 神は、最初、人間を男と女につくり、一人の男と一人の女との結合と協力とによって、人類のつとめを果たすようにお定めになりました<sup>1)</sup>。それゆえ、私たちは自分たちの結婚生活における貞潔を重んじるとともに、他の人々の結婚生活をも乱したり、汚したりするようなことをしてはなりません。

エペ5：22～33、コロ3：18～19、Iペテ3：1～7。

1) 創2：18～24。

42

問 第八戒は何といいますか。

答 「あなたは、盗んではならない」。

出20：15、申5：19。

43

問 第八戒において、神は何を命じておられますか。

答 神は、隣人の財産と権利とを犯してはならない、と命じておられるのです。

詩37：21、エペ4：28、Iテサ4：6。

44

問 神がそのように命じておられるのは、どういうわけですか。

答 いっさいのものは、みな神の所有であり、私たちが地上において、それらを所有しているのは、神がいつくしみをもって、それぞれの救いと生活の必要とに応じて<sup>1)</sup> 預け与え、委ねておられるのです。それゆえ、私たちは人の権利や持ち物を犯さないばかりでなく、進んでこれを保護しなければなりません。つまり、私たちが隣人の財産をそこなうことは、とりもなおさず、これを与えたもうた神の御旨と手立てとを軽んじ、ひいては、神のいつくしみたもう隣人の存在をそこなう結果となるからです。

1) 出9：29、同19：5、申10：14、ヨブ41：11、詩24：1、Iコリ10：26。

2) 出22：26～27、詩145：15～16、箴30：8、マタ6：11、Iテモ6：7～8。

45

問 どうすれば、この戒めに最も忠実になれるでしょうか。

答 盗むという行為の前に、かくれた欲望と悪意とをなくし、自分よりも貧しい人々を顧み<sup>1)</sup>、自分の当然の権利と思われることをも、時にはひかえめにすることです<sup>2)</sup>。

マタ6:24、ロマ15:1～3、ピリ4:11、同2:4、Iテモ6:6。

1) イザ3:14～15、行20:35、エペ4:28。

2) レビ19:9～10、申24:19～22、ルツ2:15～16、箴11:24。

46

問 盗みに準ずることに、どういうことがありますか。

答 詐欺<sup>1)</sup>、横領<sup>2)</sup>、脅喝<sup>2)</sup>、贈収賄<sup>2)</sup>はもちろんのことですが、法律的には不正と判断されないものでも、神と良心との前には汚れた金もうけの手段はたくさんあります<sup>3)</sup>。要するに、正当な秩序と労働とによらぬ取得と所持、隣人愛にもとる商業的行為、また無益な消費は盗みにほかなりません。

1) 詩10:7、ヤコ5:4。

2) 出23:8、サム上8:3、詩26:10、アモ3:10。

3) 出22:25、エゼ18:7～8。

58 挿入

58 3) 使5:1～11 (削除)

47

問 第九戒は何といえますか。

答 「あなたは隣人について、偽証してはならない」。

出20:16、申5:20。

48

問 第九戒において、神は何を命じておられますか。

答 法廷における偽証をはじめ、偽言<sup>1)</sup>、誹謗<sup>2)</sup>、陰口<sup>3)</sup>、嘘言等をもって、隣人をそこなういっさいの言葉の罪、さらには、いまだ舌にのぼらぬ隣人に対する悪意、中傷の念を抱いてはならない、と命じておられます。

箴 19 : 5、21 : 28、24 : 28、マタ 7 : 1 ~ 2、エペ 4 : 25、I ペテ 3 : 10 ~ 11。

1) 箴 6 : 16 ~ 17、イザ 59 : 13。

2) マタ 15 : 19、マル 7 : 22、I テモ 6 : 4、テト 3 : 2。

3) 箴 25 : 23、ロマ 1 : 29、II コリ 12 : 20。

49

問 神が、そのように命じたもう根拠は何ですか。

答 内に悪意がひそむ時には、必ず悪しき言葉となってあらわれます。それゆえ、まず隣人に対する内なる悪意をなくさねばなりません。偽証することは、真実よりも利害を愛し、神の真実よりも人間の欲望を尊ぶところから生まれます。私たちがいつわりの言葉をもってそこなうことは、とりもなおさず、神の真実を無視し、これを踏みにじることであることを知らねばなりません。

出 23 : 1 ~ 3、詩 31 : 5 ~ 6、マタ 26 : 59 ~ 61、ロマ 3 : 3 ~ 4、I コリ 1 : 9、II コリ 1 : 18。

50

問 よい目的のために、または、やむをえないときには、うそも許されるでしょうか。

答 神は真実でいましたまいますから、真実以外のものをもって仕えられることを喜びたいませ<sup>1)</sup>ん。私たちの舌は、ただ真実だけを告げるためのものです。この第九戒はこれまでの戒めが行いに課せられたの<sup>2)</sup>に対し、言葉に課せられるのです。

イザ 28 : 15 ~ 17、ロマ 3 : 5 ~ 8。

1) 詩 101 : 7、イザ 59 : 13 ~ 19。

2) ヤコ 3 : 2 ~ 18。

51

問 神は、ただ偽証を立ててはならない、と言われているのですか。

答 いいえ。真実であられる神を愛する愛に基づいて、隣人を愛し、つねに真実をもってこれに接し、正しい証しを立て、また、善意をもって、名誉を隣人に帰するようにし、こうして、いつわりに満ちた世界に神の真実を貫き立てるために、あらゆる努力をはらうように求めておられます。

ゼカ 8 : 16 ~ 17、ルカ 10 : 25 ~ 37、エペ 4 : 14 ~ 15、Iペテ 4 : 8 ~ 11、Iヨハ 4 : 11 ~ 12。

52

問 第十戒は何といいますか。

答 「あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない」。

出 20 : 17、申 5 : 21。

53

問 第十戒において、神は何を命じておられますか。

答 これは、心に課せられた戒めです。神は心の中までをさぐりたもう御方ですから、行いと言葉とだけでなく、思いと願望とをも潔めることを命じておられます。

サム上 16 : 7、詩 139 : 4、マタ 15 : 18 ~ 19、ヤコ 1 : 14 ~ 15。



54

問 神は、なぜ、このように厳しく貪りを禁じられるのですか。

答 貪りは、結局、自分と自分の欲望とを神の座につかせ、神の定めたもうた、神と人、人と人との秩序を無視して、ほしいままに振る舞うことにはかならないからです。神のいつくしみたもう隣人のものをむさぼることは、とりもなおさず、絶対者なる神の主権を傷つけ、侮辱することで、これは神が決して許したまわないことです。

ヨシ7：19～25、箴21：26、ミカ2：2～3、エペ5：5。

1) コロ3：5。

55

問 必要なものを求めることは許されると思いますが、どこからが、むさぼりになるのですか。

答 私たちには、隣人を愛することが命じられていますが、これにさからって自分の利益を求めることが貪りです。自分よりも貧しい者を見過ごしにして、自分のみ奢りにふけることは貪りです。

Iヨハ3：17。

1) Iコリ10：24。

56

問 十戒は要約すると、どういうことになりますか。

答 「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ」、また、「自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ」ということになります。

レビ19：18、申6：5、マタ22：37～39、ルカ10：27、ヨハ21：15、Iヨハ3：11。

57

問 神はこれらの戒めに、絶対に服従することを命じておられますが、私たちはこれらを完全に行いうるでしょうか。

答 いいえ。私たちは罪人ですから完全に行いうるものは誰もありません。しかし、わたしたちは神の戒めに従って生きる決意を与えられており、神は、私たちの不完全な服従をも、キリストにあって受け入れてくださるのです。

エレ31：33、マタ5：17、ロマ3：31、Iペテ1：14～16。

58 挿入

58 かえってわたしたちは律法の前に、これらを到底行ない得ない罪人の頭である自分を見いだすばかりです

58 Iテモ1：15 (削除)

58

問 では、誰も完全には行いえないことを、どうして神は命じておられるのですか。

答 私たちに自分の罪を認めさせ<sup>1)</sup>、自分の義によって立つことを断念させ<sup>2)</sup>、ますます深く救い主イエス・キリストに依り頼ませ、いよいよ罪の赦しとキリストにある義とを求めさせるためです。さらに、聖霊の恵みを求めて、**私たちが神のかたちに従って新しくされ、終わりの日において、ついに完成に到達するよう、神に祈らせたもうのです。**

ロマ8：4、Iコリ15：10、ピリ1：6、同2：12～13、テト3：1～9、ヘブ13：20～21。

1) ロマ3：10～18、Iテモ1：15。

2) ロマ9：31～32、ガラ5：3～5。

58 をして

58 また、わたしたちが神のかたちに似るように聖化され、終りの日において、ついに完成に到達するよう、聖霊の恵みを求めて

## 第13章 主の祈り

主よ、ヨハネがその弟子たちに教えたように、わたしたちにも  
祈ることを教えてください。ルカ 11：1

1

問 キリスト者の祈りとは何ですか。

答 祈りとは、神を正しく認識した者が、神との交わりにおいて、神と語り合うことです。すなわち、私たちが執り成したもうイエス・キリストの御名により、<sup>1)</sup>聖霊の助けを受けて、<sup>2)</sup>神の栄光を讃え、<sup>3)</sup>その恵みを感謝し、<sup>4)</sup>罪を告白し、<sup>5)</sup>執り成し、<sup>6)</sup>祈願をささげることです。

詩 19：14、同 62：8、エペ 6：18～19、コロ 4：2、Iテモ 2：1、黙 5：8。

1) ヨハ 14：13～14、同 15：16、同 16：23～26、コロ 3：17。

2) ロマ 8：26～27、エペ 6：18。

3) 代上 29：10～13、詩 86：9、同 141：2、マタ 6：9、黙 5：13～14。

4) 出 15：1～2、ダニ 2：23、ロマ 1：8、Iコリ 1：4、IIコリ 1：11、ピリ 4：6。

5) 詩 32：5、ダニ 9：3～19、ヤコ 5：16、Iヨハ 1：9。

6) 創 18：22～33、エペ 6：18～20、Iテモ 2：1～3。

7) 詩 2：8、マタ 7：7～11、ルカ 11：9～13、ヨハ 14：13、Iヨハ 5：14～15。

58 挿入

2

問 なぜ祈らなければなりませんか。

答 祈りは神がもっとも求めたもうささげものだからです。聖霊が私たちに子たる身分をささげる霊を与え、<sup>1)</sup>アバ父と呼ばしめるのです。<sup>2)</sup>私たちは、

この祈りによって、いよいよ生命を豊かにされ、恵みの<sup>3)</sup>富にあずかるので  
す。

詩 50 : 14 ~ 15、同 51 : 16 ~ 17、ホセ 14 : 2、マタ 7 : 7 ~ 11、ルカ 11 : 13、  
ヘブ 13 : 15 ~ 16。

- 1) ロマ 8 : 15、II コリ 6 : 18、I ヨハ 3 : 1。
- 2) マル 14 : 36、ロマ 8 : 15、ガラ 4 : 6。
- 3) エペ 2 : 7。

## 58 挿入

### 3

問 いかにかに祈るべきですか。

答 ただ、聖なる神の御前に、霊とまこととをもって祈るべきです。<sup>1)</sup>それは、  
畏れと信頼<sup>2)</sup>とをもって神に近づき、自らの無価値と欠乏とを意識し、求め  
る必要を痛感して、確信をもって、熱心に祈ることです。

王上 8 : 38 ~ 39、マタ 6 : 7、ヨハ 4 : 23 ~ 24、I テサ 5 : 17。

- 1) ヘブ 10 : 22
- 2) マタ 21 : 22、ルカ 11 : 13、ヨハ 16 : 23 ~ 24。

### 4

問 祈りは神と個人との間のことがらではありませんか。私たちが共に祈る  
ということには、どういう意味がありますか。

答 個人の祈りは、もとより欠くことはできません。しかし、それとともに、  
共同の祈りもまた、主の求めたもうところではあります。なぜならば、キリスト者  
の生活は聖徒の交わりであり、それは一つの霊と一つの口とをもって神を  
崇め、兄弟から信仰の告白を聞き、共に祈ることのうちに生かされるから  
です。そして、このことが教会全体を建てるのです。

詩 122 : 1 ~ 9、マタ 18 : 19 ~ 20、行 2 : 42、同 12 : 5、同 20 : 36。

5

問 正しい祈りの模範は何ですか。

答 聖書の言葉のすべてが、真の祈りを教えますが、特にキリストは「主の祈り」を弟子たちに教えて、祈りの模範としてくださいました。

マタ6:9～13、ルカ11:1～4。

6

問 主の祈りの内容は何ですか。

答 神への呼びかけと、六つの祈りと、結びの頌栄とからなっています。そして、はじめの三つは、もっぱら神御身のことが求められ<sup>1)</sup>、あとの三つでは、神のものである私たち自身のことを求めることがゆるされています<sup>2)</sup>。

1) マタ6:9～10、同6:33、詩95:6、同115:1。

2) マタ6:11～13。

58 1) ピリ2:21 (削除)

7

問 神への呼びかけは何といますか。

答 「天にまします我らの父よ」。

マタ6:1。

8

問 「天にまします」とは、どういう意味ですか。

答 私たちが、神をこの世の知恵をもって知りえない全能者、すべてのものを統治したもう主権者<sup>1)</sup>として崇めることです。私たちの地上の思いを引き上げて、神に信頼と服従とをささげることを意味します<sup>2)</sup>。

詩103:19、同115:2～3、マタ5:34、同23:9、黙4:2。

1) 詩93:1、イザ66:1、ダニ4:26、黙11:15、同19:6。

2) ビリ3:19～20、コロ3:1～2。

## 9

問 どうして「われらの父よ」と呼ぶのですか。

答 神はイエス・キリストの父<sup>1)</sup>にいて、私たちはキリストにおいて神の子とされました。それゆえ、子として慈愛に富みたもう父に対して、畏敬と信頼とをささげ、主にある兄弟と共に、また、兄弟のために祈るべきです。

ヨハ20:17、ロマ8:15、同15:30、エペ3:14～15、ヘブ12:9、Iペテ1:17。

1) ロマ15:6、エペ1:3。

## 10

問 第一の祈りは何といますか。

答 「願わくは御名を崇めさせたまえ」。

マタ6:9、ルカ11:2、詩113:1～3。

## 11

問 御名が崇められるとは、どういうことですか。

答 御名<sup>1)</sup>とは、イエス・キリストにおいて正しく知られた神の御存在と御性質のことであり、崇められるとは、**すべての聖徒が、御名の聖なることを告白<sup>2)</sup>し、すべてのつくられたものが讚美と頌栄とをささげ、全世界に神の栄光の輝くこと<sup>3)</sup>です。**

詩92:1、マタ5:16、ロマ15:6、Iコリ8:6、黙4:8。

1) 出3:13～14、同33:19、詩76:1、ヨハ17:6、同17:26。

- 2) 詩99:3、イザ6:3、同43:15、同49:7、ホセ11:9、黙4:8。  
 3) IIテサ1:10。

58 すべてのつくられたものが、御名を聖として告白し、これに対して讚美と頌栄とを捧げられること

12

問 第二の祈りは何といますか。

答 「御国を来たらせたまえ」。

マタ6:9、ルカ11:2。

13

問 御国とは、どういうものですか。

答 キリストによる神の支配であって、キリストが来たりたもうたことにより、すでにはじまっている国であり、神の言と聖霊とによって統治され、完成をめざしているもの<sup>1)</sup>です。

⑨ 第九章（教会）14問参照。

ルカ11:20、同17:21、Iコリ15:24、コロ1:13、黙22:20。

1) 黙12:7～10。

58 キリストが主として君臨せられる恵みの

14

問 「来たらせたまえ」とは、どういう意味ですか。

答 教会が増し加えられ、キリストの支配が私たちの中にも、全世界にも徹底し、悪魔の業が打ち碎かれ、ついに神の民の数が満ち、キリストの再臨によって、御国が完成することを祈るのです。

ロマ11:25～26、同16:20、Iコリ15:24～28、エペ1:20～21、Iヨハ3:8、黙10:7、同11:15、同12:10、同17:17。

58 挿入

58 教会

15

問 第三の祈りは何といますか。

答 「御こころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」。

マタ 6 : 10、ルカ 11 : 2。

16

問 「御こころの天になるごとく」とは、どういうことですか。

答 神の御こころが、世のはじめ以来、天において御使によって行われているように、ということです。

詩 103 : 19 ~ 22、同 119 : 89、ヘブ 1 : 14。

58 による経綸が、よのはじめの先に、天において、イエス・キリストのうちに成就されている

58 エベ 1 : 3 ~ 5 (削除)

17

問 「地にもなさせたまえ」とは、どういうことですか。

答 天上におけるように、地上においても、私たちがイエス・キリストの十字架によってかちとられた勝利<sup>1)</sup>の恵みによって自己否定と服従のたたかいを終わりまで成し遂げることを得させられるように、と祈るのです。イザ 25 : 8 ~ 9、マタ 5 : 48、I コリ 15 : 57 ~ 58、エベ 3 : 16 ~ 19、I テサ 5 : 4 ~ 11、I ペテ 1 : 13 ~ 21、I ヨハ 5 : 4 ~ 5、黙 7 : 14。

1) II コリ 2 : 14、コロ 2 : 15。

58 勝利が完結するように、またわたしたちもこの勝利のたたかいに終りまであず



かることを

58 Iテサ4:3 (削除)

18

問 第四の祈りは何といますか。

答 「われらの日用の糧を今日も与えたまえ」。

出16:4、同16:12～15、王上19:4～8、マタ6:11、ルカ11:3。

19

問 「われらの日用の糧」とは何ですか。

答 すべての人間の現実の生存に必要ないっさいのものです。これは、神が恵みとして与えたもうたものですから、とくにキリスト者は感謝をもって受けるべきです。

創28:20～22、申8:3、詩145:15、箴30:8～9、マタ4:4、同6:32、Iテモ4:3～5。

20

問 どうして「今日も与えたまえ」と祈るのですか。

答 すべては神の与えたもうものですから、神の祝福<sup>1)</sup>がなければ勤労もむくもられず、また、勤労の果<sup>み</sup>として受けた糧といえどもわたしたちのものとはなりません。それゆえ、富める者も、一日の糧を与えたまえ、と祈る必要があります。こうして、私たちは全信頼<sup>2)</sup>を神にのみおくのです。夕には明日の必要、朝には今日の必要について祈りつつ働くのです。

マタ6:34、ピリ4:6、同4:19、IIテサ3:11～12。

1) マタ14:19、同15:36、行27:35。

2) 詩62:8、同115:9～11。

21

問 第五の祈りは何といますか。

答 「われらに罪を犯す者を、われらが赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ」。

マタ6：12、ルカ11：4。

22

問 「われらに罪を犯す者を、われらが赦すごとく」とは、私たちの罪が赦される条件でしょうか。

答 いいえ、そうではありません。罪の赦しは十字架の贖いによって、価なくして与えられる恵みです。

ダニ9：18～19、行13：38、ロマ3：24、同4：5、エペ2：5、Iヨハ2：12、同4：10。

23

問 それでは、どういうことでしょうか。

答 私たちは、すでに赦罪の恵みの中にあるのですから、互に赦し合うべきものです。それゆえ、互の罪をゆるすことは、まことに困難なことであるとはいえ、兄弟の罪を赦さないのは、神のあわれみを拒むことであり、神の赦しを期待しえない状態にあるのです。

マタ6：15、同18：21～35、マル11：25～26、エペ4：32。

24

問 「われらの罪をも赦したまえ」とは何でしょうか。

答 私たちは肉体をもってこの世に生きる限り罪を犯します。もし神がキリストのゆえにつねに赦したまわれないならば、私たちは失われたものです。それゆえに、私たちは、心から神の赦しを祈り求めなければなりません。

これによって自分自身も隣人の罪を心から赦す者とされ、神のものたるに  
適わしいものになるのです。

マル11：25～26、行2：38、Iヨハ2：1。

25

問 第六の祈りは何といいますか。

答 「われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ」。

マタ6：13、ルカ11：4。

26

問 「試みにあわせず」とは、どういう意味ですか。

答 人間は弱いものですから、神が私たちがいっさいの悪魔の誘惑から護り、  
聖霊によって支えてくださるよう、と祈るのです。悪魔はしばしば、光  
の衣をまとい、神の言を利用して、私たちを試みるゆえ、たえず目を覚ま  
していなければなりません。

詩91：12、マタ4：1～2、同26：41、IIテモ4：18、ヤコ1：13～15、Iペテ5：8。

1) IIコリ11：13～15。

2) 創3：1、マタ4：5～6。

58 2) 詩91：12 (削除)

27

問 「悪より救い出したまえ」とは、どういう意味ですか。

答 悪とは悪しきこと、また、悪しき者を意味し、私たちを永遠の滅亡に誘  
う悪魔の支配から救い出し、これに抵抗させ、ついに永遠の御国に移したま  
え、と祈るのです。

マタ26：41、ヨハ16：33、行26：18、コロ1：13、テト3：1～2、Iペテ5：9。

## 58 御子の国に

28

問 結びの頌栄は何といいますか。

答 「国と権力と栄えとは、限りなく汝のものなればなり」。

代上29：10～13、ダニ7：14、エペ3：20～21。

29

問 これは聖書の本文にはありませんが、どういうわけですか。

答 これは、主の祈りの本質から当然出てきたものです。また、祈りの結びに慣用された頌えの言葉であって、初代教会が早くから、礼拝に主の祈りを用いていましたので、この頌栄が加えられて今日に至ったものです。

詩115：1、同145：1～13、Iコリ15：24、黙4：11、同11：15。

30

問 この頌栄はどういう意味ですか。

答 神を天地の主<sup>1)</sup>、永遠の王<sup>2)</sup>として、その支配と全能と栄光とが、永遠にわたって、神御自身のものであることを讚美頌栄<sup>3)</sup>するのです。

詩145：13。

1) 詩115：15、マタ11：25、行17：24。

2) 詩44：4、Iテモ1：17、黙19：6。

3) イザ57：15、黙4：11、同5：12～13、同11：15。

4) 代下20：21、詩146：1～2、行16：25、ロマ15：11、エペ5：18～21。

31

問 「アーメン」とは、どういう意味ですか。

答 アーメンとは、「まことに、そのとおりに」という意味で、誠実な同意

をあらわして、各自が、また会衆が祈る時に用います。もとより、「アーメン」の確かさは、私たちの願いのせつなることを要求しますが、<sup>1)</sup>それを聞いたもう神の真実に基づくことは言うまでもありません。

ロマ3:4、Ⅱコリ1:20～22、Ⅱテモ2:13、黙5:1、同7:12。

1) 王上18:36～37、マタ7:7～11、ルカ11:8～12、同18:1～7、ヨハ16:24。

## 第14章 終わりの日

わたしをつかわされたかたのみこころは、わたしに与えて下さった者を、わたしが一人も失わずに、終りの日によみがえらせることである。わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう。ヨハネ 6：39

わたしの語ったその言葉が、終りの日にその人をさばくであろう。

ヨハネ 12：48

あなたがたは、終りの時に啓示さるべき救いにあずかるために、信仰により神の御力に守られているのである。Iペテロ 1：5

1

問 終わりとは、どういうことですか。

答 この世の終わりをいうのです。すなわち、この世の秩序が神によって終わりを告げられ<sup>1)</sup>、すべてのものの究極の目的が明らかにされ<sup>2)</sup>、神の完全な支配が打ち立てられること<sup>3)</sup>です。

- 1) マタ 13：39～40、同 24：1～14、Iペテ 4：7。
- 2) ダニ 9：15～27、Iコリ 3：13、同 15：28、IIテモ 4：8。
- 3) イザ 2：1～4、ダニ 7：14、Iコリ 15：24～28、黙 12：10、同 19：6。

58 意味

2

問 終わりの日は、どのようにして来るのですか。

答 終わりの日は、旧約における主の日の成就として<sup>1)</sup>、イエス・キリストによって約束されたように<sup>2)</sup>、主の再臨<sup>3)</sup>において来ます。

- 1) イザ65：17、エレ33：14、ヨエ2：31、アモ5：18。
- 2) ヨハ6：40、同14：3。
- 3) マタ16：27、同24：30～31、黙1：7。

58 待望

3

問 再臨の日に、イエス・キリストによって何がなされるのですか。

答 それまでは、ただ信仰の秘義として隠されていたものが、あきらかにされるのです<sup>1)</sup>。すなわち、最後の審判が行われ<sup>2)</sup>、救いの御業が完成し<sup>3)</sup>、神の国が実現するのです<sup>4)</sup>。

- 1) Iコリ4：5、コロ3：4、IIテモ1：10。
- 2) 伝12：14、IIコリ5：10、黙20：12～15。
- 3) 詩138：8、ロマ8：23、ピリ1：6。
- 4) Iコリ15：24、Iテサ2：19、黙12：10～12。

58 黙20：21 (削除)

4

問 終わりの日の審判とは、どういうことですか。

答 それは、来たりたもう主イエス・キリストの審判です<sup>1)</sup>。生きている者も、死んだ者もよみがえらせて、すべてこの審判の座の前に立たせられるのです<sup>2)</sup>。

- 1) ヨハ5：22、行10：42、Iコリ4：3～4、Iペテ4：5、黙20：12。
- 2) Iテサ4：13～18、ヘブ9：27～28。

58 1) ヨハ5：27 (削除)

## 5

問 それでは、終わりの日は、罪人にとっては、恐ろしい審判の日ですか。

答 そうです。聖霊の執り成しをしりぞ<sup>1)</sup>げ、あくまでも神に従わない者には、呪いと永遠の刑罰とが宣告される日です<sup>2)</sup>。しかし、主イエス・キリストの十字架の贖いを信じる者には待望の日です。なぜなら、私たちの罪に対する呪いと刑罰とは、キリストによって負われ<sup>3)</sup>、赦されているからです。

アモ 5 : 18 ~ 20、マタ 25 : 31 ~ 46、ヨハ 5 : 22 ~ 29。

- 1) マル 3 : 28 ~ 30、ヘブ 10 : 29 ~ 32。
- 2) マタ 25 : 46、ヨハ 5 : 29、ロマ 2 : 8、IIテサ 1 : 7 ~ 9、Iペテ 4 : 17 ~ 18。
- 3) イザ 53 : 4、ロマ 4 : 25、ガラ 3 : 13。

## 6

問 終わりの日に、救いの業が完成するとは、どういうことですか。

答 古い天地は過ぎ去り、新しい天地があらわされ<sup>1)</sup>、私たちの卑しい体は栄光の体と変えられ、勝利の冠が与えられること<sup>2)</sup>です。

- 1) イザ 65 : 17、同 66 : 22、IIペテ 3 : 10 ~ 13、黙 21 : 1 ~ 2。
- 2) Iコリ 15 : 50 ~ 52、IIコリ 3 : 18、ピリ 3 : 21 ~ 22。

## 7

問 終わりの日の勝利の保証は、どこに与えられていますか。

答 それは、イエス・キリストの十字架と復活と昇天と聖霊の働きという、終末的な出来事においてです。

行 2 : 1 ~ 4、同 2 : 14 ~ 21、同 2 : 38、同 17 : 31、ロマ 8 : 34、Iコリ 1 : 30 ~ 31、IIコリ 1 : 21 ~ 22、同 5 : 5、ガラ 5 : 17、エペ 1 : 3 ~ 14、ヘブ 1 : 1 ~ 3。

## 8

問 この世を去ったキリスト者は、どのような状態におかれますか。

答 主にあって死んだ者は、終わりの日に栄光の体によみがえらされるま



<sup>1)</sup>で、イエス・キリストと共におります。

ルカ 22 : 43、Ⅱコリ 5 : 8、ピリ 1 : 23、コロ 3 : 3～4。

1) ヨハ 5 : 28～29、同 6 : 40、Ⅰコリ 15 : 51～58、ピリ 3 : 21、Ⅰテサ 4 : 13～18。

## 9

問 終わりの日に、神の国が実現するとは、どういうことですか。

答 終わりの日に、キリストはすべての権威と権力を滅ぼして、国を父なる神に渡されるのです。こうして、神の国は実現し、私たちは神との聖なる交わりにおかれ、永遠の祝福にあずかることができるのです。<sup>1)</sup>

この神の国実現の日まで、教会は神の国が近づいたことを告知しつつ、<sup>2)</sup>御国の来ることを祈りつづけるのです。<sup>3)</sup>

イザ 65 : 17、ダニ 2 : 44、同 7 : 26～27、Ⅰコリ 15 : 24。

- 1) ヨハ 17 : 22～26、Ⅰペテ 1 : 7、Ⅰヨハ 1 : 3、黙 5 : 1～14。
- 2) マル 1 : 14～15、ルカ 10 : 9、Ⅱテモ 4 : 1～14。
- 3) マタ 6 : 10、同 6 : 33。

## 10

問 では、どのようにして、終わりの日を知ることができますか。

答 私たちはその時を知りません。これを知っておられるのは、ただ父なる神のみです。信仰者はキリストの約束を信じ、その日をつねに待望しているのです。<sup>1)</sup>

マタ 24 : 36、行 1 : 7、Ⅰテサ 5 : 1～3、Ⅰペテ 1 : 13。

- 1) ヨハ 14 : 3、エベ 1 : 12～14。
- 2) Ⅰバ 2 : 3、ロマ 8 : 24～25、ピリ 3 : 20、ヘブ 10 : 37、Ⅱペテ 2 : 3。

## 11

問 終わりの日は、人間の業によって来たらせることができますか。

答 いいえ、終わりの日は、人類のどのような建設的な業によっても、どのような破壊的な業によっても、来るものではありません。ただ、主イエス・キリストが権威と権力とをもって再び来たりたもう時に来るのです。

イザ61：10～11、ダニ7：13～14、同7：23～27、ゼカ4：6～9、マタ24：1～51、マル13：5～27、ピリ1：6、黙21：1～2。

## 12

問 そうすると、「終りの日に備えつつ主の来り給うを待ち望む<sup>1)</sup>」とは、何を意味しますか。

答 教会は、ただ主イエス・キリストのみが、私たちの唯一の希望と慰め<sup>2)</sup>であることを告白しつつ、終末的な業として、主から委託された福音の宣教<sup>3)</sup>と聖礼典の執行<sup>4)</sup>とをつとめる、ということの意味しています。

⑨ 「日本キリスト教会信仰の告白」。

- 1) マタ24：44。
- 2) IIコリ1：5、IIテサ2：16～17。
- 3) マタ24：14、マル16：15、ロマ1：15、Iコリ15：1～2、IIテモ4：1～5。
- 4) マタ18：15～20、同28：19～20、マル14：22～25、ルカ22：14～20、Iコリ11：23～29。

## 13

問 終わりの日を待ち望むキリスト者は、現在どのような生活をすればいいのですか。

答 私たちはキリストが教会の主であるばかりでなく、世界と歴史との主でありたもうことを確信<sup>1)</sup>し、教会の肢として、福音にふさわしく光の子として生活<sup>2)</sup>し、主の戒めに従い愛と奉仕に励むべきです<sup>3)</sup>。

- 1) マタ28：18、ルカ10：21～22、ヨハ18：37、Iコリ10：26、エペ1：21、

コロ1:15～17、黙17:14。

- 2) ロマ13:11～14、Iコロ12:12～31、エペ4:12～16、同5:8、同6:12、ピリ1:27～28、Iテモ1:18～19。  
3) ロマ3:8～10、ピリ2:12～15、Iヨハ4:7～12。

58 挿入

58 3) ロマ12 (削除)

14

問 キリストが世界と歴史との主でありたもうならば、キリスト者は現実の国家秩序に対して、どのような態度をとるべきですか。

答 教会とその肢であるキリスト者は、主の**権威**に対する感謝と畏敬のうち、国家の権威に対して服従と奉仕とをすべきです。

箴24:21、マタ22:21、ロマ13:1～7、Iテモ2:1～2、テト3:1、Iペテ2:13～14、同2:17。

58 挿入

15

問 国家の権威に服従する限界は、どこにありますか。

答 現実の国家は、完全には、神の僕となりきることができず、時には、神の敵ともなりうるものですから、私たちの服従は主にある良心と、キリストに対する服従とをさまたげられない範囲内に限られます。それゆえ、私たちは国家のどのような事態に際しても、神の言の**権威のもと**によって行動する良心の自由を失ってはなりません。

また、教会は国家が神の国の似姿になるように祈り求めなければなりません。また、それとともに、教会は信仰の限界を越えて、国家に利用される機関となることを拒否しなければなりません。

ダニ3:18、同3:28、マタ6:24、同6:33、ルカ13:31～33、行4:19、ガラ1:10、IIテモ2:9、ヘブ13:18。

- 1) イザ41:8、同45:4、ロマ13:4。
- 2) 士5:31、ミカ5:9、同5:15、Iペテ5:8~9、黙13:1~18。
- 3) 詩119:45~48、イザ8:11~13、Iペテ2:16。

## 58 挿入

16

問 国家の、教会に対する正しい態度はどうあるべきですか。

答 国家は、教会に対して、信仰の自由を保証し、福音の宣教と礼拝の自由を妨<sup>1)</sup>げてはなりません。なぜなら、国家の真の基礎は教会にある<sup>2)</sup>からです。

行5:38~39、ガラ5:1、同5:13、Iペテ2:16。

- 1) ダニ3:8~18。
- 2) 箴14:34、イザ2:3、同31:1~9、Iテモ3:15~16。

17

問 しかし、国家の非常な場合に、権力が要請するところに従うことなく、自分の良心の自由のみを守ろうとすることは、その秩序の中におかれたものとしての、政治的責任を回避することになりませんか。

答 いいえ、そういう際に、終わりの日を待望しているキリスト者の、基本的な責任は、来たりつつあるキリストの王国を告知知らせることです。それゆえ、神の言に基づく良心の自由に従って決断することは、決して責任を回避することではありません。

王上18:21、同18:36、イザ7:1~9、行20:24~25、同26:25~29、ピリ2:15~18、IIテモ4:2、テト2:15。

18

問 キリスト者は、終わりの日を待望するだけで、過ぎゆくこの世の日常の仕事には無関心であってよいのですか。

答 いいえ、キリスト者の地上の働きは、来たるべき神の国に対応した積極

的な目的と意義<sup>1)</sup>をもつものです。それゆえ、自ら働いて、パンを得るとともに、神と隣人とに仕えるときには、一般の職場も家庭<sup>2)</sup>も主の召命の場所となるのです。

詩 128 : 1 ~ 2、箴 6 : 6、ヨハ 5 : 17、同 9 : 4、行 20 : 33 ~ 35、II コリ 6 : 1、II テサ 3 : 6 ~ 13。

1) マタ 6 : 33、王上 3 : 10 ~ 14。

2) マル 10 : 43、ルカ 22 : 25 ~ 27、I テモ 6 : 2、黙 2 : 19。

## 58 挿入

### 19

問 しかし、この世の職業には、神と隣人とに泰仕する自由と喜びとのない、ただ食べるための勤労<sup>1)</sup>もあり、また、不健全なもの<sup>2)</sup>もありますが、こういう職業でも召命といえるのですか。

答 神の国を待ち望むキリスト者にとって、明らかに信仰の良心に反する職業は、召命とはいえません。しかし、その他の、無意味と見える勤労であっても、キリスト者は信仰によって、これを召命にまで高められるのです。ただ、召命と信ずるどんな職業であっても、これを重要視するあまり、第一のつとめである礼拝を軽んじてはなりません。実に神の言に聞く礼拝こそ働く生活の中心です。

創 3 : 19、マタ 25 : 14 ~ 30、I コリ 10 : 31。

1) マタ 6 : 25、ヤコ 4 : 13 ~ 14。

2) 詩 141 : 4、II テサ 3 : 11。

## 58 マタ 20 : 1 ~ 16 (削除)

### 20

問 では、職業を失い、または病床に臥して働きえない者は、積極的な生きる目的と意義とを失ったのですか。

答 決してそうではありません。キリスト者の生活に、積極的な生きる目的

と意義とを与えるものは、この世の職業や健康ではなくて、生ける神の言とこれに応答する信仰と祈りのつとめ<sup>1)</sup>です。それゆえ、この世の職業を失い、あるいは病床にふした時こそ、もっとも深く御言に聞き、たえしので、ひたすら祈る恵みの時となり、神の栄光をあらわす時となることを忘れてはなりません。特に隣人に対する最大の愛の奉仕は、隣人のために祈ること<sup>2)</sup>です。このつとめの時はだれもキリスト者から奪うことができません。

ヨハ6：27～29、同9：1～3、同11：3～4、Iコリ12：7～9、ヤコ5：7～11、同5：13。

1) 詩50：14、ロマ12：1、Iペテ2：9、黙5：8。

2) エペ6：18、Iテサ5：25、ヘブ13：18～19、ヤコ5：15～16。

## 58 挿入

### 21

問 終わりの日に至るまで、あらゆる試練と苦難とのもとに立つ教会と、その肢であるキリスト者のうちに、つねに存続するものは何ですか。

答 それは信仰と希望と愛の三つ<sup>1)</sup>です。そして、そのうち最も大いなるものは愛です。それゆえ、再び来たりたもう主を信じ、ただ主のみを望み<sup>2)</sup>、完き主の愛のうちに生かされている教会とキリスト者は、終わりの日にも、恐れることなく、顔と顔とを合せて、主にまみえるものとされます。

終わりの日に対するこの確信<sup>3)</sup>に立って、共に声をあわせて祈りましょう。「アーメン、主イエスよ、きたりませ<sup>3)</sup>」と。

1) Iコリ13：8～13。

2) ピリ1：6、Iテサ5：23～24、ヘブ10：19～25、Iペテ1：5～9、Iヨハ3：14、同4：7～12、同4：16～21。

3) 黙22：20、Iコリ16：22。